

申請者	茨城県ほか 2 自治体					初回採択回	令和 5 年度第 1 回募集
事業計画期間	R5-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	208,003千円 (34,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・マーケティングやブランディングを重視した観光地経営体制の構築を図る ・カジキ釣り国際大会を中心とする総合イベントを発展させ、リゾート地としてのブランド力向上を図る ・交通渋滞を改善し、観光客の周遊促進を図る ・一体のエリアとしての取組を進め、リゾート地としての知名度向上を図る						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 外部の専門人材との協働のもと、地元の熱量ある人たちを巻き込みながら、マーケティングに基づく観光地経営体制の構築、リゾート地としてのブランド力向上、交通渋滞の改善及びリゾート地としての知名度向上に取り組み、ひたちなか大洗エリア全体として、観光で持続的に稼げる仕組みの構築や、ひたちなか大洗エリアに魅力を感じた民間企業による投資が多発的に生まれていく状況を目指す。					▼地域の多様な観光コンテンツ  	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・地域の多様な観光コンテンツを活かしたブランディング及びプロモーション経費（委託費）19,600千円 ・カジキ釣り国際大会を中心とする総合イベントの企画・運営等（負担金） 6,000千円 ・シャトルバス運行による渋滞対策の推進（負担金） 6,000千円 ・地元食材を活用したグルメ企画等（負担金） 3,000千円 ・協議会事務費（負担金） 300千円					▼カジキ釣り国際大会を中心とする総合イベント  	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①ひたちなか大洗リゾート構想に合致する取組に係る新規参入事業者数（+ 8者） ②「IBARAKI INTERNATIONAL FISHING FESTIVAL」のイベント来場者数（+6,000人） ③ひたちなか大洗リゾートインスタグラムアカウントのリーチ数（年間）（+49,500人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/degiden.html （効果検証） https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/koukakensyoubukai.html

事業概要：リスキリング推進事業

継続

申請者	茨城県					初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	297,083千円 (69,955千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・デジタル技術の進展や産業構造の急激な変革が見込まれる中、企業人のリスキリングにより、成長産業・分野への円滑な労働移動や生産性向上を実現していく ・雇用のミスマッチやスキルギャップに対応するため、企業ニーズを踏まえたスキル向上や習得のための環境整備を進める						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 産学官が連携して以下の事業に取り組むことで、将来的には一人ひとりがスキルの向上に主体的に取り組み、そのスキルを十分に発揮できる環境が構築されることにより労働流動性が高まり、県内産業の発展につなげる。そのために、①必要スキルの見える化、②産学官による推進体制の構築、③意識啓発や機運醸成、④AIマッチングや補助金・教育プログラムによる学習支援を実施する。					推進宣言制度の創設・ 先進企業の顕彰	
	【R8年度事業 経費内訳】 ●推進体制の整備 ・産学官で構成するプラットフォームの運営等（人件費等）19,408千円 ●リスキリングについての意識啓発・機運醸成 ・シンポジウム、ワークショップの開催(委託料) 13,867千円 ・WEBサイトの運営(委託料) 4,664千円 ・リスキリング推進宣言制度、顕彰制度(事務費) 772千円 ●スキル習得に係る支援策 ・デジタルリテラシープログラムの実施(委託料等) 21,000千円 ・高度IT人材育成プログラムの実施(委託料等) 7,744千円 ・デジタルスキル習得支援補助(補助金) 2,500千円					シンポジウム、ワークショップの開催	
主なKPI	①リスキリング推進宣言企業数（+350社） ②顕彰企業数（+50社） ③県認定証の保有者数（+240名）					URL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/degiden.html （効果検証） https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/koukakensyoubukai.html



事業概要：デジタル技術を活用した移住促進事業

旧制度（推進）

申請者	茨城県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	242,709千円 (82,409千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	・県外の人々が本県の暮らしや地域の人々の魅力を知り、ファンになる仕組みの構築を図る ・本県の魅力を継続的かつ効果的に浸透させていくことにより、本県へのさらなる移住促進を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 オンライン上に、自発的かつ双方向的なコミュニケーションが取れる場を用意し、円滑にコミュニケーションが行われる支援を行うことにより、地域に関心がある県外の人々が本県との関わりを持ち、暮らしや地域の人々の魅力を知り、ファンになる仕組みを構築することで、移住・関係人口施策を一層推進し、本県への新たな人の流れを形成する。	県外 茨城に関心がある人など 県内 地域プレーヤー、先輩移住者など オンラインコミュニティ 茨城についての話題を投稿 (地域の魅力やイベントの紹介など) コメントやリアクション、体験談の 投稿など ※コミュニティ育成のためのマネージャーを配置 魅力を広く発信 ファン獲得、移住促進 茨城の認知向上 訪問・活動参加	
	【R8年度事業 経費内訳】 ● オンラインコミュニティの構築・運営（委託料）14,361千円 ・ オンラインコミュニティ参加者増加に伴うニーズ対応に係る運用・改修等 ● オンラインコミュニティへの参加者の確保（委託料等）25,391千円 ・ コミュニティ参加促進イベントの企画運営等 ● オンラインコミュニティ活性化のための話題創発（委託料）42,657千円 ・ コミュニティマネージャーの育成 ・ コミュニティ内の話題の充実・多様化のためのプログラムの企画運営 ・ 県北地域における話題提供を行うコミュニティの造成		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域へのUIターン数（+790人） ②オンラインコミュニティ参加者数（+2,750人） ③オンラインコミュニティをきっかけに本県を来訪等した人数（+110人）	URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/koukakensyoubukai.html

事業概要：稼げるインバウンド茨城・誘客促進事業

旧制度（推進）

申請者	茨城県、石岡市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	473,123千円 (136,941千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	観光分野
目的・効果	本県の特性を踏まえた観光コンテンツの磨き上げや魅力ある旅行商品の造成促進などに加え、誘客活動を戦略的に展開し、運輸業や宿泊業、飲食業等、幅広い産業への経済波及効果を狙う 官民一体となったサービス・質の向上を通じた観光消費単価の増加や周遊の促進、また、農業・輸出分野と連携したインバウンドとアウトバウンドの好循環を創出させ自立的に稼げる観光地域づくりを目指す		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 インバウンドによる富裕層を主なターゲットに、自然や食などのコンテンツの高付加価値化・目的地間の周遊のシームレス化、戦略的な販売促進・インフルエンサー等を活用したプロモーション等により観光消費単価の増加や周遊の促進を図る。		 韓国からのゴルフツアー
	【R8年度事業 経費内訳】 ●周遊観光のパッケージ化（委託料等）38,800千円 ・高付加価値コンテンツと二次交通に係る旅行商品のパッケージ化 ●戦略的な販売促進・プロモーション（委託料）74,364千円 ・各市場の特性に合せたプロモーション等 ●観光地経営の自走化（委託料）8,800千円 ・個人旅行者の動向分析・検証等 ●富裕層を含む中長期滞在の訪日外国人等を対象としたサポート体制の自立化（委託料）14,977千円 ・「IBARAKIネイティブコミュニケーションサポーター」の認定、研修、相談対応等		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における観光消費額（+22.5億円） ②1人1回当たり訪日外国人旅行消費単価（+18,750円） ③外国人延べ宿泊者数（+126,000人泊）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL (交付金の具体的使途・実施体制) https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/degiden.html (効果検証) https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/koukakensyoubukai.html

事業概要：いばらきネクストツーリズム推進事業

継続

申請者	茨城県					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	638,550千円 (212,850千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	社会のトレンドや本県の強みを踏まえた観光戦略PDCAを展開する中で、本県ならではの差別化コンテンツ等について訴求効果の高いプロモーションを実施することで誘客を促進し、観光消費額の増加を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 民間データを活用し、本県観光におけるトレンドや強み等を分析のうえ、観光戦略の見直し・策定を実施、分析結果をコンテンツ造成やプロモーションをはじめとする観光施策に反映させる「茨城観光PDCAサイクル」の確立を目指す。 さらに、本県観光イメージの形成やブランディングの推進のため、民間企業等とも連携しつつ国内外に向けた戦略的なプロモーションを実施するとともに、若年層を中心に高い知名度を誇るIPコンテンツを活用した情報発信および企画を展開することで、観光誘客を強力に促進する。					 【ブランディングイメージ】	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・茨城観光PDCAサイクル確立事業 国内外データ分析（委託費）10,000千円 茨城観光戦略の方向性とPDCAサイクルの検討（委託費）5,550千円 ・観光イメージ形成・ブランディング事業 戦略的プロモーション・ブランディング（委託費）80,000千円 県内民間企業・市町村等との連携PR（負担金）15,000千円 ・VTuber活用による魅力発信強化事業 VTuberを活用した動画の制作・配信（委託費）39,125千円 アンテナショップ及び県内観光地との連携企画（委託費）53,825千円 大型イベントを活用したプロモーション（委託費）9,350千円					  【配信動画イメージ】	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+1,333億円） ②県内延べ宿泊客数（+1,800千人） ③プロモーション・情報発信コンテンツにより訴求した延べ人数（+2,400千人） ④VTuberを活用した動画制作本数（+36本）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	○交付金の具体的使途・実施体制 https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/eigyo/kankosenryaku.html ○効果検証 https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/kikaku/seisaku/kikaku1-sogo/index.html

申請者	茨城県ほか11自治体※					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	136,815千円 (36,839千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	世界的に著名なサイクリングイベントの誘致・開催やサポートライダーの育成、宿泊施設のPR等を通じて、インバウンドの新規開拓と受入体制を強化するとともに、初心者・未体験者向けのサイクリングイベントの開催やガイドブックの作成により、潜在的なサイクリスト層の発掘を進める。さらに、サイクルステーションの整備や情報発信による安全対策を講じることで、安心して周遊できる環境を提供する。これらサイクリングを核とした観光コンテンツの高度化や受入環境整備、情報発信、人材育成等の取組を通じて、交流人口の拡大と地域消費の拡大を図り、地域の観光・サービス産業を中心とした地場産業の付加価値向上を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、海外市場からの誘客を強化し、地域消費拡大及び地域ブランド確立を目指すための「インバウンドの新規開拓と受入体制の強化」、新規サイクリストの創出と継続利用の促進によりサイクリスト人口拡大等を図る「潜在的サイクリストの発掘」、ならびに情報発信を通じた危機管理対策の推進により、サイクリングを核とした交流人口及び地域消費の拡大を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・インバウンドイベント誘致、多言語対応施設整備、宿泊施設PR、サポートライダー育成等を通じて、海外サイクリスト誘客を促進。(委託料等) 6,620千円 ・潜在的サイクリスト向け体験型イベント、サイクリングマップ作成等で初心者層への参加促進、裾野拡大を図る。(委託料等) 18,369千円 ・危機管理対策・情報発信 リスク情報発信により、安全で安心な周遊環境を提供 (委託料) 6,800千円 ・ナショナルサイクルルート対応モデル拠点整備・実証事業 設備導入費の補助(補助金) 5,000千円 ・自転車ラックの整備等 (備品等) 50千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①サイクルルート自転車利用者消費金額 (+158,632千円) ②サイクリングイベント参加者数 (+1,200人) ③サイクルルート利用者数 (+30千人)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

※茨城県、水戸市、日立市、常陸太田市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、茨城町、大洗町、城里町、東海村、大子町の広域連携事業

事業概要：新しい多文化共生基盤構築事業

新規

申請者	茨城県						初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度						期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	64,011千円 (21,337千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・急増する外国人住民が地域の一員として安心して暮らし、日本人住民と協働できる多文化共生基盤を構築する。 ・外国人の生活ルールの理解促進と地域の受入体制強化を同時に進め、文化・習慣の違いによる摩擦や不安を未然に防止する。 ・外国人住民の定着を促進し、地域コミュニティの活性化や担い手不足の解消につなげることで、地場産業を含む地域経済を持続的なものにする。 ・外国人と日本人が互いの多様性を尊重し、持続可能で魅力ある地域社会の実現を図る。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・生活ルール啓発員を配置し、宗教施設や食材店等の外国人コミュニティを把握するとともに、継続的な訪問と対話を実施する。 ・ごみ出し、交通ルール、騒音、納税など生活の基本情報を、多言語チラシ等により分かりやすく周知し、ルールの定着を図る。 ・専門知識を有する地域共生推進員を配置し、市町村、日本語教室等を訪問して実態把握と課題分析を行う。 ・やさしい日本語の活用や外国人対応のポイント等を助言し、地域の受入体制を強化する。 ・出前講座やシンポジウムの開催により理解促進と意識改革を図り、交流機会の創出を通じて地域全体の共生力を向上させる。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・外国人コミュニティ等への訪問による生活ルール啓発(人件費等) 8,665千円 ・地域共生コーディネートプログラム(委託費) 12,672千円							
主なKPI	①外国人の社会増減数(転入超過数)(+273人) ②生活ルール啓発員によるコミュニティ訪問件数(+900件) ③地域共生推進員による支援件数(+60件)						URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.ibaraki.jp/seikat-sukankyo/josei/gaisei/gaikokujins-eisaku.html

事業概要：クリエイティブ・コンテンツ産業振興事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	139,766千円 (59,776千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	多くの若者を惹きつけるとともに、高い経済波及効果が期待できるクリエイティブ・コンテンツ産業について、産業が集積する首都圏との近接性を活かしつつ、産官学連携のもと、「クリエイターの育成・確保」と「働く場の創出」に果敢に挑戦し、若者が学び就業する、新たな選択肢を継ぎ目なく提供しながら、クリエイターに選ばれる環境を構築することにより、日本の新たな基幹産業を支える、若者が集い「楽しさ」あふれる茨城づくりを推進するものである。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 業界には人材を求め首都圏の外へ進出・拠点を設立する動きがあるなか、本県では人材確保面の課題からアニメ制作会社等の設置が進まず、専門学校側におけるアニメ教育も進まないといった構造的な課題が存在。アニメ産業を志す若者が県外へ転出せざるを得ない状況となっている。相互に律速となっている構造的な課題を克服するため、県内の専門学校等のアニメ教育推進の支援や、県内でのアニメ制作会社等の創業・拡大の支援等に同時並行で取り組み、クリエイターの育成・確保とクリエイターが活躍できる働く場の創出を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 (1) クリエイターの育成・確保 ① 県内専門学校等が行うアニメ制作現場で活躍するクリエイターの講師招聘等を支援（補助金）3,740千円 ② 県内専門学校等がアニメ制作の指導を新設・拡充する場合に必要な初期費用の一部を支援（補助金）30,000千円 ③ 都内で活躍する本県出身クリエイターや県内で活躍するクリエイターを発掘し、勤務実態や移住の条件などを調査（委託料）5,300千円 (2) 働く場の創出 ① 本県への移転・拠点整備の可能性がある制作会社をはじめ、都内制作会社等に所属する本県出身クリエイターの発掘調査（委託料）5,736千円 ② 県内で新たにアニメ制作会社等を創業又は県内のアニメ制作会社等が事業を拡大する際の初期費用を支援（補助金）15,000千円						
主なKPI	①新規立地企業における雇用創出数（正規雇用）（+25人） （アニメ制作会社に限る） ②アニメ制作会社の創業・拡大数（+5社） ③県内専門学校等のアニメコース等の設置数（+6校）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和9年3月公表予定

事業概要：地域イノベーション創出事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	384,000千円 (128,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・研究/ベンチャー情報の集約と発信により、世界から注目されるビジネス地域の創出を目指す。 ・つくば地域や東海地域に集積する最先端の研究機関などの他地域にはない特性と魅力を、付加価値の高い産業に結びつける。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 研究の情報、ベンチャー企業の情報、県内中小ものづくり企業の情報を収集（発掘）する。併せて、研究機関等と中小企業の橋渡しと事例の横展開により、県内における新しいビジネスを生み出す基礎づくりを行う。 また、集約した情報について、対象（メディア、大手企業新規事業開発部門、民間R&D、ベンチャーキャピタル等）の求める形にアレンジし、発信を行う。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・優れた研究の情報集約（負担金）10,000千円 ・創業間もないベンチャー企業等の情報集約（委託料） 46,000千円 ・技術力を持つものづくり企業の情報集約（補助金等） 11,000千円 ・大規模国際イベントへの出展、情報発信（委託料等） 61,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①取り組みから生まれたビジネスの地域経済への波及効果(+250.5億円) ②研究シーズ、ベンチャー企業、共同開発者データベースの登録数(+102件) ③取り組み実績のメディアへの掲載件数(+255件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(交付金の具体的使途) https://www.pref.ibaraki.jp/shokorodo/sangi/sougyou_venture3.html (効果検証) https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/keikaku/chiho/koukakensyoubukai.html

事業概要： いばらきモビリティ再編支援事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	173,333千円 (20,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	県主導のもと、地域の実情に応じた最適な交通モードへの転換に取り組む市町村に対し、ベストミックスな交通体系の構築に向け、検討から新交通導入及び運用後の改善検討までの一括したサポートを行い、地域内外からの移動地域の足の維持・確保を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 コミュニティ交通の再編に取り組む市町村に対し、課題分析から再編後のフォローアップまで包括的な支援を実施。 (R8年度実施事項) ・ビックデータを活用した旅客流動分析や費用対効果の検証 ・市町村域を超えた運行など広域的な観点から利便性向上策の検討 ・優良事例の分析・展開 (R9-10年度実施事項) ・調査分析を踏まえ、地域交通の再編に取り組む市町村に対し、再編に係る導入費用等を支援 ・再編後の効果検証、改善策の検討をフォローアップ					 【コミュニティ交通の例】  ▲コミュニティバス ▲乗合タクシー	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・調査検討費用 20,000千円						
主なKPI	①コミュニティ交通利用者数 (+295,805人) ②市町村連携によるコミュニティ交通の新規導入・運行再編数 (+9件) ③地域公共交通の再編に取り組む市町村数 (+15件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/kotsuseisaku/chiikikoutsu/suishinkyougikai.html

事業概要：県北地域資源を活用したインバウンド誘客推進事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集	
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	53,700千円 (17,900千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・高機能な開発拠点を核に、伝統ある地域の特産品のブランド化を展開し、地場産業の付加価値向上を目指す。 ・地域全体で新たな販路開拓に向けたノウハウやネットワークを学び、地域課題である伝統産業の伝承や成長に繋げる。 ・海外企業とのビジネスを通じた外需獲得に向け販路開拓等を幅広く支援し、地域経済の拡大を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 県北地域の山と里という地域資源を繰り返し訪れることで、自然の景勝地や歴史的遺構、人々の営みに触れ、日本の原風景を体験できる唯一無二の旅行商品を創出する。 消費単価が高く、アドベンチャートラベル市場が大きい欧米豪の富裕層等を主な対象に販売することで、地域経済の活性化（消費の増大等）および地域住民による県北の魅力の再発見を通じた文化的価値の再評価を図り、茨城県北の振興に寄与することを目指す。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 インバウンド向け旅行商品の造成及び販売支援等を行うもの。 ・インバウンドに訴求力のある宿泊・食・文化体験等のコンテンツを発掘し、インバウンド向け旅行商品を造成をする。（委託費：6,000千円） ・県北地域の魅力や強み、ターゲットとする欧米豪の市場のニーズを整理し、デプス・インタビューによって検証することで、迅速に事業を推進する。また、開発したツアープロダクトを販売につなげていくため、以下3つの手法等を用いてPRを実施する。（委託費：7,000千円） ①セールスコール（オンラインを含む）②ウェビナー（オンラインセミナー）③ニュースレター ・ツアーコンセプト、宿泊施設のインスペクション、周囲の観光資源の確認など、ランドオペレーターが旅行商品を販売するためにFAMツアーを実施する。（委託費：900千円） ・インバウンド向け旅行商品の提供にあたっては、コース情報やリスク管理に精通し、多言語でのコミュニケーションが可能なガイドの確保が不可欠であるため、ガイドを対象とした言語・地理・文化等の研修を実施し、運営体制を整備する。（委託費：4,000千円）							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（県内） ②地域における観光入込客数(県北6市町) ③インバウンド向けツアーの参加人数					(+1,291億円) (+287,362人) (+56人)	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：県北里山ディスカバリー事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	330,000千円 (110,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	茨城県県北地域山間部（常陸太田市、常陸大宮市、大子町）の多様な「里山資源」を活用し、地域一体となった誘客促進や観光消費額の拡大を図ることで、持続的な地域活力の創出を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 人口減少・高齢化が進行する本地域では、里山景観や生活文化など地域固有の資源が点在しているものの、十分に整理・活用されていないことが課題となっている。また、体験型コンテンツや滞在環境が不足しているため、来訪者の滞在時間が短く、観光消費が地域内に波及していない。本事業では、里山資源の磨き上げと価値の可視化、コスプレロケ地を起点とした誘客、忍者体験コンテンツの造成、魅力ある宿泊施設環境の検討を段階的かつ相互に連携させて実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ①里山資源をパッケージ化した誘客プロモーション 33,000千円 古民家宿泊など里山体験コンテンツのPR 等 ②里山の世界観を活かしたコスプレイベント等の開催 22,000千円 コスプレイベントの実施、コスプレロケ地撮影の促進 等 ③話題性のある忍者コンテンツの造成による誘客 33,000千円 「体験型忍者コンテンツ」の造成 等 ④魅力ある宿泊施設の誘致等 22,000千円 古民家を活用した宿泊施設や分散型ホテル等の展開						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（県内）（+1291.8億円） ②地域における観光入込客数(県北地域山間部3市町）（+135,379人） ③ともに事業に取り組む地域団体/事業者の数(+60事業者)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年9月公表予定

事業概要：eスポーツを活用した地域ブランド確立事業

新規

申請者	茨城県					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	154,305千円 (41,435千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・国際大会等の県内開催を促進することで、「eスポーツと言えば茨城」というブランドイメージを形成し、さらなるeスポーツイベントの開催といった好循環を生み出すことで、本県産業の振興及び観光誘客（観光消費）の増加を図る。 ・本県をeスポーツの聖地とし、国内外から多くの人や企業を呼び込むとともに、県内への観光誘客の促進及び来場者等に対する本県企業のPR等を通じて、地場産業（eスポーツ関連産業）のビジネスチャンスの創出・拡大を図ることで地域経済の維持及び拡大につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○ 民間主催の国際大会等の誘致に向け、開催に係るPRに関する費用等を補助するとともに、県内の産学官メンバーで構成する協議会とも連携し、集客面での支援を行う。 ○ 本県のeスポーツに関するポータルサイトをリニューアルし、民間主催の国際大会等の開催について、県としてもプロモーション面での後押しを行っていく。 ○ さらに、連動したサイドイベントを合わせて実施することでプロモーション面での追加の後押しを行うとともに、県内のeスポーツ関連企業のPRを行う。					国際大会等のイメージ 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・国際大会等開催に係るPR支援（補助金）26,000千円 ・サイドイベントの開催（負担金）10,000千円 ・誘致に向けたプロモーション経費（負担金）2,333千円 ・誘致活動推進員1名（会計年度職員）の雇用（報酬等）3,102千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（+1,292億円） ②eスポーツの国際大会等の新規開催数（+3回） ③民間等主催のeスポーツ関連イベントにおける集客数（+17,000人） ④「いばらきeスポーツ産業創造プロジェクト推進協議会」会員数（+15者）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.ibaraki-esports.com/

事業概要：日立駅前地区再活性化事業

継続

申請者	茨城県日立市					初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	171,903千円 (25,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・プロモーションやイベント等により、日立駅前地区のにぎわいや来街機会の創出を行う。 ・積極的なプロモーションやイベント等を継続して実施するとともに、来街割合の低い若年層の来街増に繋がる施策を展開することで、これまでの取組みを活かしながら、更なる再活性化を推進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市の玄関口である日立駅前地区の活性化を図るため、官民連携による合意形成を促進し、プロモーションや誘客促進となるイベント等を継続して開催、実施し、来街機会・にぎわいを創出するとともに、来街割合の低い、若年層に向けた新たな施策（イベントや新たな商品・サービスの開発など）により、来街機会創出とともに財源の確保を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・日立駅前地区活性化委員会への運営補助（補助金） 誘客イベント実施費 9,600千円 プロモーション費用 9,000千円 試作品等開発費 1,000千円 その他 5,400千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①日立駅前地区の公共施設利用者数（+110万人） ②日立駅前地区への新規出店件数（+44件） ③地域資源を活用した新商品・サービス等の開発（+5件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hitachi.lg.jp/shisei/seisaku_zaisei/1003276/1003280/1003281.html

事業概要：ひたちファンクラブによる関係人口拡大・創出事業

継続

申請者	茨城県日立市					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	30,300千円 (10,600千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・「ひたちファンクラブ」を設立・運営することにより、市民・市外住民問わず、本市に興味・関心を高められる環境を整えるとともに、新たな地方創生人材の育成につながる取組を促進し、関係人口の創出・拡大を実現する。 ・ロケ資源の掘り起こしや誘致活動、制作会社等への市の魅力のPR、各種支援に取り組むとともに、ファンクラブ運営事業者等と連携し、ロケを切り口とした情報発信等をファン会員・非会員向けに広く行うことで、ファンクラブ会員の増加による関係人口の拡大・創出と地域経済活性化の両面において相乗効果を発揮する。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民のシビックプライド醸成や愛着度向上のみならず、全ての市外住民を対象に、本市に興味・関心がある方の掘り起こし、興味・関心を持ってもらうためのきっかけづくりを行い、関係人口の拡大・創出、地域経済活性化に資するとともに、地域と地域、人と人の結び付けを強化し、次代を担うまちづくりの担い手（地方創生人材）の育成を図り、将来的な移住者・定住者の増加につなげることを目指していく。 また、地域資源の掘り起こしを行いロケ・観光資源化を図り、交流人口拡大につなげるとともに、ファンクラブ運営と連携イベントやPR活動などの様々な取組を進めることで、関係人口の拡大・創出、地域経済活性化の両面において相乗効果を発揮する。					   		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ひたちファンクラブの運営（委託料）8,000千円 ・ロケ誘致と連携したファンの創出（委託料）2,600千円							
主なKPI	①地域の関係人口数（+15,000人） ②地域クーポン協賛事業者数（+35社） ③ファンクラブイベントの参加者数（+300人） ④地域創生人材数（+30人） ⑤ロケ誘致に係る地域経済波及効果額（+37,500千円） ⑥観光入込客数（+324万人）					URL	https://www.city.hitachi.lg.jp/citypromotion/index.html	

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：古河市ネーブルパーク宿泊施設整備事業

継続

申請者	茨城県古河市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	443,636千円 (224,136千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・市域の中心にある平成館を観光客向け宿泊施設として整備することで、回遊性ある観光ルート確立の一助となり、宿泊観光客をはじめとする新たな来訪者を増加させることができる。また、来訪者の増加に伴い、市内商店や飲食店での消費、地元農産物等の購入を増加させることで、商業、農業及び観光業等を新たな基幹産業として育成し、市外からの消費を呼び込む持続可能な地域経済を形成することを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 平成館を改修し、客室・レストラン・大浴場・休憩所の整備と、全館バリアフリー化を実施。利活用方法宿泊施設として観光客を呼び込み、回遊観光の拠点とするほか、姉妹都市交流や青少年交流、ワーケーション、カフェ・レストランによる公園利用者の憩いの場として活用。地域製品の販売やPRにもつなげる。市外からの来訪者増加と観光消費拡大による地域経済の活性化、自家用車アクセスの良さを活かした広域に及ぶ集客、ふるさと納税や観光PRとの連携による利用促進など新規顧客開拓や子育て世代、シニア層、ワーケーション利用者、スポーツ合宿など多様な層を取り込み、稼働率向上と需要拡大を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築工事 136,748千円 ・電気設備工事（照明改修等） 27,074千円 ・機械設備工事（衛生設備、厨房改修等、空調設備、ボイラー改修） 36,538千円 ・工事監理委託費 6,622千円 ・積算単価入替業務 704千円 ・備品購入 16,450千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①市内観光消費額（+19億円） ②観光入込客数（+182千人） ③平成館の宿泊利用者数（+1,660人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/kikaku/26/2jisougu/sougoukeikkaushingikai/17731.html

事業概要：地域資源の発掘及び磨き上げによる地域経済の活性化

継続

申請者	茨城県古河市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	33,100千円 (9,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	市内商店街における空き店舗の現況を調査し、創業や事業承継支援と結びつけながら空き店舗の利活用を考え、創業や事業承継支援と合わせながら創業者が持続的に経営できるよう環境を整備し地域経済の活性化を図る。また、新規に立ち上げた「古河サークル」と協力し、より地域に密着した包括的な創業、事業承継支援を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 初年度に実施した空き店舗の調査を参考に空き店舗の管理を目的としたリストを作成する。リストなどをもとに古河駅周辺や商店街の空き店舗の利活用の方向性を考えていく。 また、データマーケティング事業により地域の人流を測定し、駅西口地区に賑わいを創出するための施策等に反映する基礎資料とする。 さらに、創業・事業承継等支援として、市民を対象した創業・事業承継に関するセミナー等を開催し、市民が創業・事業承継に興味をもてるよう啓発を行っていく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・まちづくり会社等へ空き店舗リストなどの管理委託事業 空き店舗利活用検討(委託料)2,950千円 ・データマーケティング及び創業・事業承継支援事業 データマーケティング事業(委託料)：4,950千円 創業・事業承継支援等準備事業(委託料)：1,100千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①空き店舗率（▲5%） ②空き店舗補助利用者数（+6人） ③古河駅の利用者数（+600人/日） ④創業・事業承継セミナー等参加者（+80人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/kikaku/26/2jisougo/sougoukeikkaushingikai/17731.html

事業概要：関係人口コミュニティ創出・拡大事業

継続

申請者	茨城県結城市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	15,000千円 (6,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・多様性ある関係人口が継続的に本市に関わり続けるため、各種プログラムを開催するとともに、オンラインとオフラインを併合したコミュニティを作り、関係人口の創出・拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市の地域資源を活用し、地域外の既存のファンや企業・団体をターゲットとした移住体験や企業合宿型ワーケーション、子育て世代に特化したコミュニケーションイベント等、対象をセグメント分けした各種プログラムを実施する。併せて、プラットフォームサービスやSNSを活用しながら、オンラインとオフラインを併合したコミュニティの形成・活性化に取り組む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業経費 ・エリアコンテンツ活用型関係人口創出事業 プログラム実施、受入れコーディネート、コミュニティの組成・運営（委託料：2,000千円） ・子育てコミュニケーション型関係人口拡大事業 プログラム実施、受入れコーディネート、コミュニティの組成・運営（委託料：2,000千円） ・関係人口コミュニティ活性化事業 プラットフォームサービス活用、データ分析・活用、情報発信（委託料：1,934千円、システム等使用料：66千円）						
主なKPI	①地域の転出入者数（+30人） ②プログラムをきっかけに本市に来訪等した人数（+135人） ③関係人口コミュニティ参加者数（+95人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.yuki.lg.jp/shisei/c-hihouseusei/

事業概要：「スポーツクライミングのまち龍ヶ崎」推進事業

旧制度（推進）

申請者	茨城県龍ヶ崎市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	100,161千円 (40,000千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	優位性や独自性を発揮できるスポーツクライミングを軸に、市の認知度向上やシビックプライドの醸成を図る 日本、世界規模の大会招致等を通じてにぎわいを創出し、若者世代を中心とした交流人口の増加、移住・定住促進を図る 人口減少を克服し、将来にわたって成長力を確保していくことで、活力ある持続的な発展を目指す		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「スポーツクライミング」という本市ならではのコンテンツを生かし、「スポーツクライミング」を体験する機会の創出、市内外に向けたプロモーション活動、本事業の象徴的なイベントの開催、持続的な事業運営に向けた体制の構築などを推進していきながら、多分野の施策と融合させ、まちのにぎわい創出・地域の活性化に寄与していく。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・市内外に向けたブランディング事業 4,500千円 ・スポーツクライミングを軸としたにぎわい創出事業 10,000千円 ・次世代クライマー創出事業 6,000千円 ・持続可能な事業推進に資する環境整備方針及び運営体制の確立に向けた検討事業 9,500千円 ・スポーツクライミング体験機会促進事業 10,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域の人口・世帯数 (▲580人) ②スポーツイベントの参加者数 (+1,500人) ③たつのこアリーナボルダリングウォール利用者数 (+900人) ④事業に参画する団体数 (+30団体)		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/kyoiku/supotsu/climbing-city/tiikisaiseikeikak.html

事業概要：下妻市映画製作事業

新規

申請者	茨城県下妻市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	178,550千円 (152,150千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・観光振興・ブランディング：作品を通じて本市の魅力を全国・海外に発信し、観光誘客や都市イメージ向上につなげる。 ・地域経済活性化：ロケ地利用や撮影スタッフ・出演者の滞在で宿泊・飲食・交通など地元産業に直接的な経済波及を生む。 ・文化・人材育成：映像制作を通じた市民参加やワークショップでクリエイティブ人材を育成し、地域の文化資源を活用・蓄積する。 ・関係人口の創出：映画という強い発信力を持って本市の認知度と魅力を高め、UIターン促進や移住定住につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 下妻市をロケ地として、短編映画2本、長編映画1本、ドキュメンタリー映像を制作するとともに、学生主体の映画撮影ワークショップを開催する。制作体制として、市民主体の「下妻市映画製作実行委員会（事務局：下妻市）」を組織し、内部に「制作支援部会」「食料部会」「プロモーション部会」を設置することで、官民学連携により制作・運営を進め、行政は側面支援を行っていく。撮影した映画のプロモーション活動を通してロケ地や地場産品を最大限に露出し、本事業を単発のPRイベントで終わらせず、地域経済全体の底上げを図るプロジェクトの一環として、戦略的に計画・実行していく。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 下妻市・映画製作実行委員会・映画製作会社が三者協定を行い事業実施 ・短編、長編映画製作補助金（補助金）73,700千円 ・学生による映画製作ワークショップ開催（補助金）28,400千円 ・ライブ付上映イベント開催（補助金）27,500千円 ・プロモーション活動経費（補助金）22,550千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（+16.6億円） ②地域へのUIターン数（+410人） ③地域の人口（▲723人） ④関東鉄道常総線下妻駅における乗降客数（+50,000人） ⑤若者の市公式LINEへの登録数（+2,200人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.shimotsuma.lg.jp/shisei/koho-kocho/promotion/shimotsuma-movieproject/page008978.html

事業概要：常総市AIまちづくり推進プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	茨城県常総市		初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度		期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	88,581千円 (30,621千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型		事業分野	ローカルイノベーション分野
目的・効果	A I などの先端技術を活用する企業を誘致し雇用の機会を創出することで、若年層を中心とした生産年齢人口の還流を図る。 市内の小中高校生に対しAI教育・キャリア教育を進め、将来のAI人材を育成することにより、本取組によって集積していく企業等の雇用需要を満たし、若者が戻ってこれる持続可能なまちを実現する。			
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・「常総AIまちづくりコンソーシアム」の活動を推進し、地域課題プロジェクトやプロジェクトへの参画者を増やすためのイベントを実施する。 ・将来のAI人材育成のため、市内小中学生を対象としたAIロボットプログラミング講座を実施する。 ・多くの方にAIに親しみを持つ場を提供するため、市所有の自然体験施設「あすなろの里」でのAIモビリティ体験実施する。		常総市AIまちづくり10年構想 新たな産業と雇用を創出し、魅力・活力のあるまちへ Phase 01 市民がAIに親しみを持つ Phase 02 市民がAIを積極的に活用する Phase 03 市民がAIをつくる 2023年 2027年 2030年 2032年 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・コンソーシアム運営経費（委託料）6,600千円 ・農業×AIプロジェクト経費（謝礼・資材費・委託料）3,573千円 事業化可能性を探るためのトライアル検証を行う ・イベント開催経費（委託料・謝礼）1,100千円 ・AIロボットプログラミング教育（委託料）15,018千円 ・AIモビリティ乗車体験経費（人件費）869千円			
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における新規雇用者数（+42人） ②AI等の先端技術を活用した地域課題解決プロジェクトの新規実施件数（+5件） ③AI教育に取り組む市内小中学校数（+17校） ④あすなろの里でのAI体験プログラム参加者数（+2,500人）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL	<a href="https://www.city.joso.lg.jp/kuras
hi_gyousei/shisei/seisaku/compr
ehensive_plan/machi_hito_shigot
o/">https://www.city.joso.lg.jp/kuras hi_gyousei/shisei/seisaku/compr ehensive_plan/machi_hito_shigot o/

事業概要：6次産業化推進拠点施設運営組織組成事業

継続

申請者	茨城県常総市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	16,422千円 (0円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・農業を活かしたまちづくりである「アグリサイエンスバレー事業」の取組の地域農業・地域経済への波及を図る ・「6次産業化推進拠点施設」の運営による消費者ニーズのある農産物の加工及び加工品等の開発の実働 ・上記施設の運営機能を含め、地域商社機能を有する組織による公益性と収益性を兼ねそろえた事業展開を目指す						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 アグリサイエンスバレー事業の目的である地域農業振興及び産業振興を達成するため、「6次産業化推進施設」の運営機能をはじめ、アグリサイエンスバレー事業によって整備された各機能と地域農業との事業連携機能や、道の駅関連事業ふるさと納税事業等の関連施策等の地域振興策を多角的に企画・実行できる地域商社機能を有する運営組織の組成に向けてのアクションプランの策定					 生産・加工・流通・販売の産業団地 「アグリサイエンスバレー常総」	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○アクションプランの策定 ①出資比率案の作成 ・運営組織における意思決定の権限や議決権、役員報酬と配当方針、追加出資や資本政策、譲渡制限、事業承継や撤退時の取決め等の案の作成 ・合併契約や定款作成に向けた協議 ②組織人員体制案の作成 ・運営組織における部署・役職の設計、人員配置、業務内容と責任範囲の整理、報酬体系と評価制度の設計、人材育成の制度設計、法務・労務の整備等の案の作成 ③事業計画案の作成 ・事業コンセプトとビジョンの明確化、市場調査とターゲット設定、販売・収益戦略の構築、サービス・商品の詳細設計、仕入れ・生産・提供プロセスの整理、事業スケジュール策定、資金計画と収支計画、リスク管理等を整理し、事業計画書案の作成 ④パートナー企業及び地域内連携企業との協議 ※R8年度は令和7年度で策定するアクションプラン（案）をもとに、アクションプランを策定するが、（案）で一定レベルのスキームが構築でき、主業務が内容の精査、庁内調整・関係者との協議になることから、経費削減の点も含めて、交付申請額（事業費）は0円とする。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における農水産出荷額（＋1億2千万円） ②運営組織の構成又は事業において連携する事業者数（＋8者） ③運営組織等において開発又は製造された商品数（＋6件） ④運営組織の市ふるさと納税事業に占めるシェア（＋5%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.joso.lg.jp/kurashi_gyousei/shisei/seisaku/jinken_othe r/page004912.html

事業概要：自動運転の社会実装を見据えたMaaS×eコマース推進事業

継続

申請者	茨城県常陸太田市					初回採択回	令和4年度第2回募集
事業計画期間	R4-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	270,472千円 (99,800千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	自動運転EVバスを中核に、新たな移動・生活サービスを構築する。高齢者等の移動利便性向上、中心市街地の回遊性や商業活性化を図るとともに、レベル4自動運転の社会実装を見据え、持続可能な地域公共交通モデルの確立と地方創生を推進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 東部地区商業施設周辺を中心に自動運転EVバスを運行し、ラストワンマイル交通の確保と運行範囲の拡大を図る。レベル4自動運転の社会実装を見据え、既存公共交通と連携した持続可能な地域交通モデルを構築、全国横展開を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○レベル4実運行に向けた委託料 合計99,800千円 自動運転ソフトウェアライセンス 8,400千円 自動運転オペレーションマネジメント 3,600千円 自動運転クラウドサービス 23,000千円 自動運転車両メンテナンス 10,200千円 オペレーター、遠隔監視者 41,000千円 プラチナマップ、デジタルサイネージ 5,900千円 運行ルート拡大に向けた地図データ作成等 7,700千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域への転入者数（+60人） ②自動運転車両の活用による移動性の満足度（+26.3%） ③自動運転車両の乗車率（+19%） ④MaaS×eコマースシステムを使用した際の満足度（+34%） ⑤拠点施設における商品受け取りロッカーの利用率（+10%） ⑥レベル4運行エリアの拡大（+3.5km）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page009432.html

事業概要：ひたちおおた魅力発信プロジェクト

新規

申請者	茨城県常陸太田市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	5,466千円 (2,720千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・市民の広報チームを立ち上げ、SNSを活用し市の魅力発信することにより、まちづくり担う人材育成及び行政にはない市民目線でのPR効果を目指す。 ・開発が進んでいる商業施設や手厚い子育て支援策を市内外に発信することにより若年層や子育て世代の流出防止や転入を促す。 ・関東ローカルTVと連携し、本市発祥の「常陸秋そば」や果樹、観光施設等を県内外に効果的にPRし、交流人口・関係人口の拡大を目指す。 ・市内に点在する多様な地域資源を体系的に整理・可視化し、映像制作者が利用しやすいフィルムコミッションホームページを構築する。 ⇒市内総生産の増加や雇用創出を図るとともに、市民の買い物環境の確保を通じて、地域経済の活性化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市が進める雇用創出、移住・定住促進、結婚・出産・子育て支援、魅力あるまちづくりの施策効果を高めるため、市内外に向けて支援制度や住環境の魅力のほか、地域の魅力や取組を分かりやすく継続的に発信していく。 また、市民の理解と共感を深め、市民自らが市の魅力を発信・共有し地域への愛着や参画意識を醸成するとともに、多様な媒体を活用し、ターゲットに応じた戦略的な情報発信を行うことで、交流人口・関係人口の拡大を図る。					新市街地開発が進む常陸太田市東部地区 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・市民広報チームの立ち上げ及び情報発信 275千円 ・関東ローカルテレビを活用した情報発信 990千円 ・常陸太田アンバサダーの委嘱及び情報発信 108千円 ・フィルムコミッションホームページ作成（委託料）1,347千円					子育て支援制度や観光資源などの魅力を市内外へ発信  	
主なKPI	①市の助成制度等を活用した転入者数（+9人） ②観光施設入込客数（+2,500人） ③市及び市民広報チームのSNS総フォロワー数（+5,000人）					URL	https://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/page/page010271.html
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

申請者	茨城県高萩市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	6,732千円 (2,244千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	地方への人の流れ分野
目的・効果	本事業を実施することにより、持続可能な地域づくりに不可欠な地域社会・経済を支える担い手の創出を図る。将来的な移住者の拡大に向け、地域との関係性を深める取組を進め、関係人口の拡大を図る。移住後の働き方の選択肢を広げる支援策を用意し、本市を将来的な移住先として捉えてもらう体制を整える。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域住民との協働作業に興味がある方に、本市を訪問し、地域との関係性を深めていただく取組を進め、関係人口の拡大を図るとともに、移住者が起業する際の支援策を用意して、移住後の働き方の選択肢を広げ、本市を将来的な移住先として捉えていただけるような体制を整える。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ● 関係人口創出事業（委託料） 2,002千円 ・コミュニティ構築のための移住検討者の募集と地域住民との協働活動のサポート ・フリーランスを中心とした移住意欲のある方への広報、協働活動による関係人口の深堀りと情報発信 ● 移住者支援事業（委託料） 242千円 ・起業するためのノウハウを学ぶことができる、「高萩起業塾」について ・移住検討者等が、本市で起業しやすくするため、これまでのリアル開催に加えて、オンラインのハイブリット開催とする		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン数（+30人） ②コミュニティによる地域との協働事業の回数（+9回） ③高萩起業塾のオンライン受講者数（+12件）		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL https://www.city.takahagi.ibaraki.jp/gyousei/news/page006637.html

事業概要：北茨城市ファンクラブの運営による関係人口創出事業

新規

申請者	茨城県北茨城市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	15,000千円 (5,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・広く本市の魅力を発信するシティプロモーションを展開し、認知度の向上を図る。 ・本市に興味・関心を持った人を受け止める仕組みとして、「ふるさと住民登録制度」のアプリを北茨城市ファンクラブとして活用し、関心層の可視化を図るとともに、ターゲットを意識した情報発信や施策展開につなげる。 ・市内各種事業者と連携した体験メニューを展開することで、来訪機会の創出と再訪を促進し、地域との継続的な関係構築につなげる。 ・芸術によるまちづくりの取組と連動したアートイベントを核に、再訪動機の強化と交流の深化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 広く本市の魅力を発信するシティプロモーションの展開により認知度の向上を図り、本市に興味・関心を持った人をふるさと住民登録制度のアプリを活用した北茨城市ファンクラブへとつなぎ、地域おこし協力隊による情報発信と、事業者と連携した特典付き観光・体験メニューを展開する。あわせて、アートイベントと連動させることで、関係人口の創出を図る。					認知 ・PR素材の制作・広報 ファンクラブ登録 ・ターゲットを意識した情報発信 来訪・体験 ・観光・農業・漁業・アート体験 再訪・関係深化 ・一年を通じた農業体験 ・参加型アートイベント 認知から当市との継続的な関係構築へ	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・会員獲得に向けた市のPR媒体の制作（委託料）：1,000千円 ・会員獲得に向けた市のPR媒体の広報（委託料）：1,000千円 ・会員に限定しない交流イベントの実施（委託料）：500千円 ・会員向け体験事業実施費用（委託料）：1,200千円 ・会員特典提供協力事業者募集に要する経費（委託料）：300千円 ・芸術イベント運営費（補助金）：1,000千円 ※ その他補助対象外で特典提供あり。						
主なKPI	①地域の人口・世帯数（関係人口や交流を含めた増加数）（+600人） ②交流イベント参加者数（+300人） ③ファンクラブ会員への情報発信回数（+96回） ④会員の当市への来訪者数（+75人）					URL	https://www.city.kitaibaraki.lg.jp/docs/2022021700064/
※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値 ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL							

事業概要：中心地区（まちなか）活性化事業

継続

申請者	茨城県笠間市					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	19,700千円 (7,000千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	・都市としての持続化を図る上での生活と経済の基盤となる市の中心地区において、まちづくりの担い手となる人材育成と既存ストックを活用した事業創出が連動する事業を公民連携により展開し、地域での生活と経済の双方を向上させる「人」と「モノ」の循環モデルを形成する。同時に、本事業により都市としての魅力を向上し、若年層の流出抑制とUターンの促進にもつなげていく。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 1年目に提案された空き店舗等活用事業の実事業化のため、水戸信用金庫を中心にした各事業計画のブラッシュアップ支援、事業化を図る物件のリノベーション手法等の検討支援から事業所誘致を実現するための活動を展開。ハード整備や拠点形成と連動し、友部駅周辺を生活・消費の中心として機能させ、地域全体に波及効果を生みながら持続可能な都市再生を実現する。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・創業支援のための実践講座を開催（委託料）500千円 ・創業に向けた伴走支援及び事業所誘致調査（委託料）3,500千円 ・創業に向けた支援補助（補助金）3,000千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①対象区域内の空き店舗率（▲2.16%） ②対象区域内の新規事業数（+4所） ③対象区域内の創業・起業者数（+6人） ④対象区域内の公共空間滞留者増加率（+96%） ⑤ビジネスプラン創出事業参加者数（+25人） ⑥イベント参加者数（1イベントあたり）（+650人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.kasama.lg.jp/page/page017301.html	

事業概要：既存施設のスペース活用による生活応援拠点形成事業

継続

申請者	茨城県笠間市					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	12,000千円 (6,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	買い物施設や行政機関へのアクセスに距離のある市の周辺地域において、郵便局や駅といった既存ストックの空きスペースを活用し、地域交流の場として買い物支援、行政を含む生活課題の相談対応ができる拠点の整備を図ることで、周辺部での生活の持続性の確保に向けた実証とサービス実装に取り組む。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 郵便局や駅等の既存ストックの空きスペースを活用し、地域交流の場として整備しながら、複数の買い物支援（既存の物流網や窓口と既存の民間サービスと組み合わせることによる必要な生活サービスの提供）と住民の生活課題の相談を受け行政を含む必要なサービスにつなぐ相談体制の構築により、多世代による地域内外の交流を活発化させる。					既存施設のスペース活用による生活応援拠点形成事業（イメージ） 拠点施設（郵便局、無人駅等）  地域交流拠点として活用  買い物支援策の展開  相談対応による不安解消	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・買い物支援サービスの実証実装（委託料等）4,100千円 ・相談受付サービスの提供（委託料等）1,150千円 ・地域交流拠点としての備品整備（委託料等）750千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①周辺地域の人口減少の抑制（+24人） ②整備拠点の利用件数（+2,940件） ③整備拠点への生活相談件数（+588件） ④生活に不便さや不安を感じている地域住民の減少率（+6%） ⑤買い物支援サービスの利用件数（+1,764件） ⑥買い物に対して不便さや不安を感じている地域住民の減少率（+6%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.kasama.lg.jp/page/page017301.html

事業概要：「デジタル×アナログ」力による安心コミュニティ形成事業

継続

申請者	茨城県笠間市					初回採択回	令和7年度第2回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	7,300千円 (4,500千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	担い手が不足する現状において、安心できる日常生活の維持・向上に必要となる草刈り、防犯や見守りなどに対応するため、A Iカメラ、地域アプリ「かさまコネクト」などのデジタル技術と、ボランティア人材等による対面等での対応などアナログによる相談体制や有償ボランティアによる草刈り等の環境整備体制の構築により、少子高齢化、人口減少が進むなかでも、デジタルとアナログを併用し、地域課題を解決する安心して暮らせる地域コミュニティ形成を進める。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 地域課題の把握やデジタル活用サービス需要調査を実施し、通報機能などを備えたA Iカメラや地域アプリ「かさまコネクト」への緊急連絡等アラートなど新たな機能追加によるデジタル技術の活用や、共助での対応が困難となっている除草、草刈りなどの負担軽減、効率化のため有償ボランティア人材等による相談体制や環境整備体制を構築するほか、他地域にも展開を図ることで、地域外からの人流を促す。					「デジタル×アナログ」力による安心コミュニティ デジタル×アナログ相談体制  動く市役所 有償ボランティアによる除草		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・事業の展開・拡大のための地域イベント、意見交換会（報償費）500千円 ・地域アプリへの機能追加（委託料）1,500千円 ・A Iカメラの導入・運用（通信運搬費・委託料）2,500千円							
主なKPI	①地区内の人口減少抑制率（+1.2%） ②安心して暮らせると感じる市民の実感度（+0.40%） ③地域アプリ「かさまコネクト」利用者数（+250人） ④相談対応業務への参画者数（+11人） ⑤機能活用による相談件数（+50件） ⑥草刈り機等環境美化実施箇所数(+6箇所)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.kasama.lg.jp/page/page017301.html	

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

事業概要：笠間市アーバンスポーツ拠点整備計画

新規

申請者	茨城県笠間市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	403,000千円 (22,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・急速な人口減少が進む中、若者文化と親和性の高いアーバンスポーツ拠点を強化し、「スポーツシティかさま」としてのブランドを確立することで、若年層を中心とした交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指す。 ・2028年ロス五輪種目となる「オブスタクルスポーツ」等の独自性の高いコンテンツにより、世界大会の誘致等によるインバウンドを含む広域からの集客及び滞在型コンテンツへの転換により、地域内消費額の向上を図り、持続可能な稼ぐ観光地域を創出する。 ・さらには、本市の強みである「笠間焼」や「栗」等の地域資源と若者文化である「アーバンスポーツ」を融合し、持続的に収益を生み出す地域経済の基盤を構築する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 スケートパークを有する笠間芸術の森公園を核に、アーバンスポーツ拠点として、東日本初となる「オブスタクルスポーツ」や国内でも希少な「パチカル（スケートボード）」を整備し、圧倒的な独自性を確立する。併せて、設備が充実した管理棟や屋内施設の新設、宿泊環境の整備により、滞在型のコンテンツへと転換し、インバウンドを含む広域からの誘客と地域経済の活性化を実現する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・基本・実施設計業務委託（アーバンスポーツ拠点整備） 22,000千円						
主なKPI	①笠間市への年間観光消費額（+1億6百万円） ②笠間市への年間観光入込客数（+3万3千人） ③拠点施設への海外からの来訪者数（+48人） ④アーバンスポーツの整地としての認知度（+5万5千回） ⑤市民の健康づくり(利用者)数（+2千2百人） ⑥競技選手の育成数（+1千人）					URL	https://www.city.kasama.lg.jp/page/page017301.html

※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値

※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL

事業概要：地域資源を活用したシティプロモーションによる関係人口・交流人口の獲得事業

新規

申請者	茨城県牛久市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	24,774千円 (9,694千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	当市には、日本遺産に認定されている日本初の本格的なワイン醸造所「牛久シャトー」や全国に10か所しかない「自然観察の森」、古くから河童の伝説が語り継がれ、多くの動植物が生息する「牛久沼」、世界最大の青銅製立像としてギネス世界記録に認定された牛久大仏など多くの魅力ある地域資源を有する。2027年以降の新たな住宅開発を見据え、特に若者や子育て世帯の流入を促すため、まずは関係人口及び交流人口を獲得し、えらばれる地域を目指す。加えて、郷土愛の醸成につながるティプロモーションも行いシビックプライドを高め、人口流出の抑制にもつなげていく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 若い世代、子育て世帯の流入を促すため、当市の魅力ある地域資源を活用し、当市の強みである、歴史・環境・行政施策を「親子」と紐付け、親子施策が充実したまちという新たな独自性を打ち出したプロモーションを推進する。具体的には、親子参加型イベントの実施（親子ひろばプロジェクト）、連節バスを活用した周遊イベント、牛久沼での水上体験、牛久シャトーでのビールイベントなどを通じて、市の魅力を発信し、交流人口の拡大やシビックプライドの向上を図り、移住・定住を促進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・親子ひろばプロジェクト 3,540千円 ・連節バス運行イベント事業 1,356千円 ・牛久沼活用事業 798千円 ・牛久シャトーイベント事業 4,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①社会増減数（住民基本台帳ベース）（+150人） ②観光入込客数（+179,070人） ③交付金を活用したイベントの参加者数（+99,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：移動の自由と安心安全で自立した生活を支えるSociety 5.0推進事業

旧制度（推進）

申請者	茨城県つくば市	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	389,011千円 (84,854千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・Society5.0型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	デジタルデバイド（情報格差）の解消、多様な住民への適切な情報発信、移動困難者のウェルビーイング向上及び買い物の利便性向上を図ることで誰もが安心して暮らすことができる、「持続可能な地域社会の実現」を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 行政、移動、物流、防犯防災インフラの各分野において、生活を支える複数の先端的服务を導入し、連携することで、相乗効果を発揮するためのデータ連携基盤を構築・運営する。さらに、高齢者のデジタルデバイドの解消に努め、先端的服务が本当に必要な人へと行き渡るようにすることで、住んでいる場所や年齢、職業、国籍、生活環境等にかかわらず、すべての住民に移動の自由と安心安全で自立した生活を提供していく。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ①デジタルデバイド解消促進事業 22,325千円 ・情報格差解消促進業務委託料 22,325千円 ②つくば市ポータルアプリ開発・改修 21,713千円 ・つくば市ポータルアプリ運用費 10,751千円 ・データ連携基盤保守運用費 10,962千円 ③パーソナルモビリティシェアリング 30,258千円 ・パーソナルモビリティ運行実証費 30,258千円 ④移動スーパー等ロケーションシステム 1,341千円 ・モビリティ情報データ連携委託 1,341千円 ⑤荷物配送ロボット等による買い物等の利便性向上 2,500千円 ・自動追従型搬送ロボット運用実証費 2,500千円 ⑥アバターロボットを用いた障害者雇用の促進 6,717千円 ・障害者雇用促進実証費 6,717千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数（+5人/月） ②（仮称）つくば市ポータルアプリのインストール数（+50,000人） ③スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数（+80人） ④分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数（+5者）		
		URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakuinnovationbukikakukeieika/gyomuannai/4/3/1004715.html



事業概要：つくば市芸術文化創造拠点整備事業

継続

申請者	茨城県つくば市					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,054,254千円 (697,730千円)	
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	旧田水山小学校を芸術文化創造拠点施設として改修することで、人・モノ・情報が出会い、そこから生まれたつながりから新たな価値観やつくば独自の芸術文化を育む。さらに、誰もが出入りできる地域利用スペースを設けることで、市民交流施設の不在を解消し、旧筑波町エリアを中心としたつくば市域の振興を図りつつ、アート領域の関係人口・交流人口の創出等によって、市・県・国外へと波及しうる広域・高インパクトの地域振興を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備 廃校を改修し、創作・展示・パフォーマンス・地域交流など多目的に活用できる複合施設へ転用する。 【校舎等改修の主な内容】 既存施設を改修して創作室や多目的室・地域利用スペースを整備し、昇降口にアートゲートを新設するとともに倉庫スペースにエレベーターを設置する。 【外構工事の主な内容】 校庭やプールに芸術通り・屋外展望デッキ・展示スペースを整備するとともに、体育館を解体して跡地に駐車場を整備する。 ○つくば芸術文化創造拠点ポータルサイト制作 つくば市芸術文化創造拠点のポータルサイトを制作し、展示・催事等の情報発信、その他求人や市内アート情報の集約等を行う。 ○つくば市芸術文化創造拠点ロゴデザイン等制作 市民や民間と協議し、拠点ロゴ等をデザインする。							
	【R8年度事業 経費内訳】 【拠点整備事業経費】 ○（仮称）つくば市芸術文化創造拠点整備 ・校舎棟の改修 457,632千円 ・外構工事 234,658千円 ○つくば市芸術文化創造拠点ポータルサイト制作 ・ポータルサイトデザイン・CMS構築委託料 5,000千円 ○つくば市芸術文化創造拠点ロゴデザイン等制作 ・デザイン委託料 440千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①中心地区→旧筑波町エリアの移住者数（+50人） ②延べ施設利用者数（中心地区・市外在住者）（+11,200人） ③延べ施設利用者数（アーティスト・芸術学部系学生）（+5,600人） ④アートコーディネーター活動実績（コーディネート実施回数・人数）（+56人） ⑤延べ地域利用スペース利用者数（+5,600人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.tsukuba.lg.jp/soshikikarasagasu/seisakuinnovationbukikakukeieika/gyomuannai/4/3/1004715.html	

事業概要：あらゆる市民の移動の自由を実現する「つくばスマートモビリティ」実装推進事業

新規

申請者	茨城県つくば市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	476,639千円 (134,639千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	自動運転等のスマートモビリティサービスの社会実装、シームレスな移動を可能にするモビリティサービスの統合を両輪で進めることで、地域住民の移動に関する諸課題を解決し、自家用車に依存せず、いつでも、どこにでも移動できる移動の自由をあらゆる市民に提供する「つくばスマートモビリティ」を実現する。また、スマートモビリティの実装による中心市街地の活性化により、まちの魅力度向上、地域経済の活性化につなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ①シームレスな移動を実現するモビリティサービスの統合 既存公共交通及びスマートモビリティサービスを一体の交通サービスとしてシームレスに統合し、利便性の高い公共交通を提供する ②低速自動運転モビリティを活用した生活支援交通の拡充 市内周辺地域における低速自動運転モビリティ等を活用した移動サービスの導入により、高齢者等の移動課題の解決を図る。 ③持続可能な地域公共交通の維持 地域公共交通の維持に向けて、市内の既存バス路線にレベル4自動運転バスを導入し、持続可能な交通サービスとしての確立を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 市民ニーズ及びモビリティサービスの統合に係る調査費 4,000千円 低速自動運転モビリティ実証費：18,639千円 自動運転バス実証費 112,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①公共交通機関利用率（+3%） ②本事業で実施する公共交通施策の年間利用者数（+171,500人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

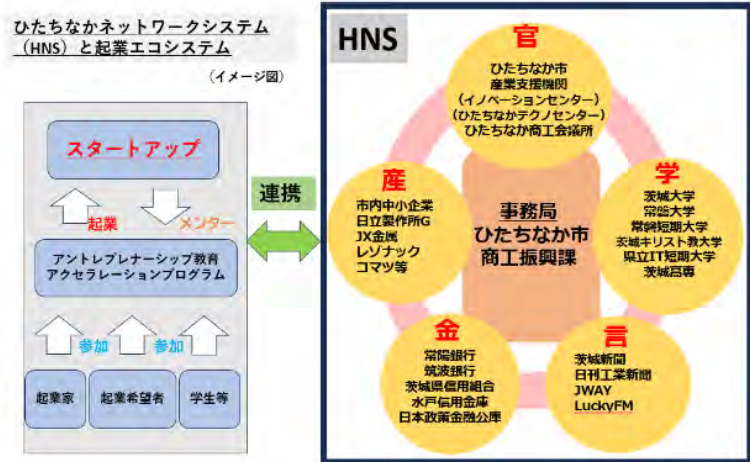
事業概要：(仮称) つくば市陸上競技場整備事業

新規

申請者	茨城県つくば市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	3,000,000千円 (600,000千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・陸上競技場を整備し、陸上競技等のスポーツ大会や地域のイベント開催により交流人口の増加を目指す。 ・トレーニング室や多目的会議室を備え、練習等の日常的な市民利用や合宿等のスポーツツーリズムを呼び込み、スポーツでつながるまちつくばを促進する。 ・誰もが使いやすい施設整備を行い、障害者のスポーツ機会を増大する。 ⇒複合的な交流を促し地域経済の活性化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 廃校となった県立高校の跡地（約7ha）へ、陸上競技場を核に「スポーツでつながるまちつくば」を推進し、地域の活性化の拠点となる施設整備を行う。 陸上競技大会や記録会を市内で開催することができ、競技を通じた市内外の交流が促進される。また、競技場や広場では、地域のお祭りや、食品及び物品を販売するイベントを開催し、市内外からの来場を誘致する。 軽運動のできる集会室、トレーニング室、ジョギング・ウォーキングコースを併せて整備し、トレーニングを行えることから、市内中学校と連携し部活動による利用、合宿等のスポーツツーリズムでの活用も想定する。これらの施設は、障害者のスポーツ大会やトレーニングが可能な整備とし、障害者のスポーツ機会の増加を促す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・メインスタンドほか建築物本体工事 312,739千円 ・陸上競技場トラックほか設備・用地造成等工事 287,261千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①陸上競技場における交流人口数 （+17,250人） ② 開催イベント数 （+22件） ③陸上競技場の利用者数 （+20,000数） ④競技場の障害者スポーツの利用者数 （+1,200件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年7月公表予定

事業概要：産学官金言連携組織（ひたちなかネットワークシステム：HNS）推進事業

新規

申請者	茨城県ひたちなか市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	25,394千円 (4,994千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・多様な業種で構成される産学官金言連携組織を新たに設立し、異業種、異分野連携を促進し地域経済の活性化を目指す。 ・起業家精神の醸成によりスタートアップが生まれる素地を作り、併せてスタートアップへの支援プログラムも整備し、エコシステムを形成することで、地域経済や雇用に大きな影響を与えるスタートアップと連携組織を活用した地域経済の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 異業種連携による業容拡大や販路開拓を促進するため、産学官金言連携組織（ひたちなかネットワークシステム：HNS）を設立する。市内を中心に大手・中小企業、産業支援機関、大学、金融機関、メディア等、約70団体が参画予定。「①地域産業の活性化」、「②新事業の創出」、「③地域人材の育成と定着」を3本の柱とし各プロジェクトを推進。提案型の異業種連携ビジネスコンテストや大学と連携した企業説明会を開催する。 本交付金を活用し、HNS全体のマネジメントと②の活動の一つとして、アントレプレナーシップ教育/アクセラレーションプログラムを実施。スタートアップ支援体制を整備し、スタートアップとHNSによる地域経済の拡大を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 アントレプレナーシップ教育プログラム/アクセラレーションプログラム開催に係る費用及び連携組織全体のマネジメントに係る委託費等。 ・プログラム企画、管理運営費：3,360千円（各種調整、プログラム全体の理運営） ・講師謝金：600千円（100千円×6回） ・消耗品費、講師交通費、オンライン開催時通信費等：100千円 ・委託費：420千円						
主なKPI	①プログラム受講生の起業件数（+5社） ②連携組織内の連携件数（+15件） ③連携組織への参画団体数（+30団体） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年9月頃公表予定

事業概要：Nostalgic city～花あかり水の郷計画～

継続

申請者	茨城県潮来市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	64,428千円 (29,879千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	水辺の風景と調和した「音・花・あかり」を活用したノスタルジックな体験型観光により、女性観光客の誘客を図る。 県境を越えた3市(潮来市・香取市・佐倉市)及び民間事業者の連携による特産品を活用したメニュー開発・展開、広域周遊観光PRにより、成田国際空港からの訪日客の誘客を図る。 藤の観光資源としての定着を図るとともに、オフシーズンにおける集客対策として、藤を活用した観光メニュー（コンテンツツーリズム）の造成により若者の誘客を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 若者や女性観光客をターゲットとし、舟を中心とする古き良きノスタルジックな観光を楽しんでいただくため、風鈴と飾りひな等での演出を構築し、女性観光客の増加と市内回遊等へと繋げる。 成田国際空港からの訪日観光客を呼び込むために、成田空港内イベントスペースでのPRや成田空港及び周辺ホテル等から潮来市へのインバウンド向けのツアー造成により周遊効果をもたらす。 藤の専門の栽培員の配置や藤をさらに魅力づけるため藤棚を整備し、観光資源としての確立を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ●ノスタルジックな観光体験事業 ・イベント用消耗品（消耗品費）458千円 ・会場設営委託（委託料）215千円 ・船頭体験教室委託（委託料）500千円 ・花摘み、あやめ笠作り等体験教室委託（委託料）200千円 ・観光体験PR動画制作（委託料）1,530円 ●近隣市・成田国際空港との連携による訪日外国人誘客事業 ・潮来市・香取市間運転委託（委託料）330千円 ・成田国際空港内PR及び周遊観光事業委託（委託料）7,300千円 ●藤を活用した観光メニューの造成 ・藤栽培育成者人件費（報酬等）3,073千円 ●観光DX推進事業 ・観光案内AI電話拡大活用（ソフトウェアライセンス料）2,390千円 ●FRPろ舟新造事業 ・FRPろ舟新造（工事費）3,883千円 ●藤棚整備事業 ・藤棚整備（工事費）10,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+39,645千円） ②水上アクティビティ体験者数（+60人） ③観光客動態調査による入込客数（+138,000人） ④ろ舟遊覧 乗船者数（+1,110人） ⑤外国人宿泊者数・水郷の衣装体験者数（+990人） ⑥娘船頭の数・女性のマルシェ・カフェ等出店者数（+3人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itako.lg.jp/shisei/kei-sen-sankaku/kei-sen-sankaku-machi/kei-sen-sankaku-machisousei/shi-machi-senryaku02/shi-machi-senryaku-jkensyo/

事業概要：廃校リ・ボーン計画ver.1 ～ウェルビーイング拠点へと生まれ変わる～

継続

申請者	茨城県潮来市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	59,303千円 (44,103千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	少子高齢化の影響や、学校統廃合に伴う「地域コミュニティの喪失」という課題に対応するため、廃校となる校舎を地域コミュニティの拠点として、新たに活用できるよう整え、今後、地域の活力となるような拠点づくりを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民の幸福や、安全・安心な暮らしを支えるうえで重要な地域コミュニティを維持していくためには、主体的に協働活動に参加できるような環境が整備されていることが重要となる。また、人口減少や少子高齢化、学校統廃合による地域コミュニティの弱体化に対応するため、廃校となる小学校を活用し、市民活動及び防災拠点として整備するほか、コミュニティスペース、コワーキングスペース、レンタルスペース、カフェなどを整備し、地域内外の人々の交流や多様な働き方、地域経済の活性化を促進することで、地域コミュニティや各種団体が活動することで互いに支え合うことができる社会づくりを目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 インフラ改修工事（工事請負費）44,103千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①津知小学校区の人口の増加人数（+250人） ②コミュニティスペースの利用者数（+4,560人） ③レンタルスペースでのイベント開催数（+120件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.itako.lg.jp/shisei/kei-sen-sankaku/kei-sen-sankaku-machi/kei-sen-sankaku-machisousei/shi-machi-senryaku02/shi-machi-senryaku-jkensyo/

事業概要：インナープロモーション推進プロジェクト

旧制度（推進）

申請者	茨城県守谷市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	36,609千円 （11,426千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	まちづくり分野
目的・効果	当市のシティプロモーションは市外からの移住推進等を主目的としたアウトプロモーションではなく、市民一人ひとりの市に対する愛着形成や当市に住んでからの関わりを深めていくためのインナープロモーションを中心に推進しており、将来的にまちを発展させていく「担い手」を作ることを最終目的としている。本事業はこのインナープロモーションの取組みを加速化させ、将来的なまちの「担い手」育成に繋げていくことを目的とする。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市民による魅力発信制度を活用したガイドマップ制作やイメージキャラクターを活用した魅力発信、指定文化財のデジタルアーカイブ化や文化財を活用したロゲイニングイベントの実施、学生向けの起業家教育と地域課題を掛け合わせたアントレプレナーシップ教育を実施する。	 市イメージキャラクター 「こじゅまる」	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・市民記者によるガイドブック制作費（委託料） 900千円 守谷市の魅力をまとめたガイドブックを制作し、情報発信を強化する。 ・デジタル公開に関する費用（委託費） 6,000千円 デジタルアーカイブシステムADEACを活用し、文化財をデジタルデータとして市のサイトで公開する。 ・アントレプレナーシップ教育業務委託料（委託料） 3,000千円 地域人材等と関わりながら自ら考える力を養う教育プログラム。	 アントレプレナーシップ教育 プログラムの様子  守谷市デジタルアーカイブHP 「守谷市デジタルミュージアム」	
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数（+450人） ②市民記者が発信する専用SNSアカウントのフォロワー数（+1,000人） ③デジタルアーカイブ「守谷市デジタルミュージアム」の年間ページビュー数（+180,000PV） ④アントレプレナーシップ教育プログラムの受講者累計数（+60人）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.moriya.ibaraki.jp/s-hisei/keikaku/1004562/1008537/index.html

事業概要：プロ野球球団進出を契機としたスポーツ資源による守谷ブランディングプロジェクト

継続

申請者	茨城県守谷市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	102,594千円 (49,443千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	TX（つくばエクスプレス）が開通して都心へのアクセスを強みに大規模な住宅開発により人口を伸ばしてきた。また、独自の教育改革を行い対外的に一定の評価を得ている。ただし、近年人口増加数は落ち着きを見せつつあり、都心へアクセス・教育環境のみで移住推進、転出防止を図ることに限界を感じている。 ヤクルト球団誘致を契機にスポーツを活かした魅力あるまちづくりを推進し、交流人口の増加と人口増加を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ヤクルト2軍施設と連携し、約13.5haの総合公園をPFI方式で整備し、令和12年度末の全体供用開始を目指す。スマートICや区画整理事業と一体でエリア全体の魅力を創出し、スポーツによるまちづくりを推進。開業前から駅周辺でのプロモーションで機運を醸成し、球団と連携した出前授業やスポーツ教室で地域連携を強化する。さらに、開業イベント等を通じて守谷市の魅力を市内外に発信し、ブランド向上と地域活性化を図る。					 東京ヤクルトスワローズによる投げ方教室	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・総合公園事業者選定支援業務（委託料）13,533千円 ・関東鉄道ラッピングデザイン・制作施工業務（委託料）3,300千円 ・各種教室等開催時講師謝金（報償費）2,000千円 ・開業イベント開催業務委託（委託料）20,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数（+546人） ②(仮称)守谷市総合公園で実施される事業参加者数（+15,000人） ③民間活力導入件数（+2件） ④「守谷市をおすすめしたい」と回答した人の割合（+13.8%） ⑤球団と連携して実施した事業数(+11件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	(事業内容) https://www.city.moriya.ibaraki.jp/shisei/keikaku/1004562/1008537/index.html (効果検証) https://www.city.moriya.ibaraki.jp/shisei/keikaku/1004562/1008537/1008607.html

東京ヤクルトスワローズによる投げ方教室

事業概要：パークアルカディアリノベーション事業

新規

申請者	茨城県常陸大宮市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	313,470千円 (95,500千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	「常陸大宮市パークアルカディア」を「食」と「体験」を核とした地域活性化の拠点として整備することで、宿泊客・日帰り客の双方に選ばれる施設を目指すとともに、管理運営方法の見直しによりグランピング施設を運営する民間事業者による一体的な施設運営へと移行し、施設間連携とサービス品質を向上させることで、施設の持続的な運営体制を図る。これにより、滞在時間・消費額の増加、交流人口拡大、農業振興を実現し、地域経済に貢献する持続的な観光拠点の確立を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 魅力的な「食」と「体験」コンテンツを提供できる観光レクリエーション施設として整備することで、民間事業者の参入により集客力が高まっているグランピング施設の利用者ニーズに一層対応していくとともに、減少傾向にあった日帰り客のニーズにも対応することで、宿泊客・日帰り客を問わず施設・地域内で過ごす時間を延伸し、施設全体としての活性化・地域振興に努めるとともに、地域経済に直接的に貢献する滞在型観光への転換を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・ふれあい交流体験館整備工事 81,500千円 利用者が安心・快適に利用できる飲食環境を確保するとともに、本市の地場産品を活用した魅力的な「食」体験の創出を図るための改修を行う。 ・森林科学館整備工事 9,500千円 法人等の新規顧客の獲得と閑散期等の安定的な施設稼働を図るため、オフサイトミーティング等が可能な多目的スペースとして活用できるよう改修を行う。 ・多目的広場整備工事 4,500千円 宿泊客や日帰り客が本市の豊かな自然環境を体験することにより施設への来場者の増加及び施設滞在時間の延伸を図るための改修を行う。						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①常陸大宮市山方地域における観光消費額（道の駅常陸大宮を含む） （+12.08億円） ②常陸大宮市パークアルカディアの延べ利用者数（+9,022人） ③常陸大宮市パークアルカディアの延べ売上高（+8,585万円）					URL ※交付金の具体的な使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/kurashi_gyousei/gyousei/plan/sougu_keikaku/sousei/page008167.html

事業概要：道の駅常陸大宮グラウンドゴルフ場整備事業

新規

申請者	茨城県常陸大宮市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	287,001千円 (97,933千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・老若男女楽しめるグラウンドゴルフは、全国的にプレー人口が増加しており、本市観光の拠点施設である道の駅に併設して造成することにより、グラウンドゴルフ場を観光資源として活用したグラウンドゴルフツーリズムを構築することで、道の駅を地域経済の中核拠点として位置付け、交流人口の拡大及び来訪者の滞在時間延長を通じて、地場産業の付加価値向上や販路拡大を図り、地域経済の維持及び拡大に繋げることを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本市には県内2位となる10のゴルフ場があるが、観光資源としての認知度は低く、十分な活用が図られていない状況にある。こうした中、民間グラウンドゴルフ場との連携を前提として、本市観光の拠点施設となる「かわプラザ」にグラウンドゴルフ場を整備する。新たに整備するグラウンドゴルフ場は、名門ゴルフ場のようなコース景観を有するもので、全国的にも珍しい起伏に富んだコースである。また、年間を通して大会の開催を計画するなど、民間グラウンドゴルフ場と一体的に運営することで、グラウンドゴルフの聖地を目指す。グラウンドゴルフを観光資源として発展させることで、入込客数増加が見込まれ、地域経済の発展と活力向上に寄与する。さらには「かわプラザ」と市内ゴルフ場が連携して取り組むことで、観光事業者の横のつながりが構築されることとなり、多様な来訪者への受入体制の強化が期待できる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・設備整備工事 23,537千円 ・用地造成工事 27,602千円 ・駐車場設置工事及び植栽工事 46,794千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（+825,996千円） ②道の駅常陸大宮の売上高（+41,625千円） ③グラウンドゴルフ場の年間延べ利用者数（+15,750人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/kurashi_gyousei/gyousei/plan/souyou_keikaku/sousei/page008167.html

事業概要：新たな価値を創造するデジタル技術を活用した持続可能な産業バリューチェーン強化推進事業

旧制度（推進）

申請者	茨城県那珂市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 （カッコ内はR8年度事業費）	73,706千円 （25,914千円）
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野	農林水産分野
目的・効果	・農産物の生産、販売、流通のデジタル化による生産流通システムのさらなる定着及びデータ活用を図る。 ・統一的なブランドコンセプトをPRするための産品開発支援及びメニューフェアを実施し、需要喚起を図る。 ・生産流通システムの整備及び農産物のブランド化事業を推進することで、那珂市の持続可能な魅力ある産業振興の好循環を目指す。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・農業経営体が使用しやすいシステム構築のための意見集約、説明会を実施し、システム利用者の拡大及び利便性の向上を図る。 ・販路拡大に向けたマッチングの取組を強化し、ブランドコンセプトの醸成を図るためのメニューイベント、先進的な取り組みの発出を図るPRを実施する。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・A I 蓄積データの活用（委託料）8,868千円 農畜産物の需要予測を活用した受発注及びA I ほ場管理システムを活用し、出荷物の安定化や品質向上を図る。 ・販路拡大マッチングに向けたプロモーションマーケティング（委託料、広告料等）17,046千円 農畜産物の販路拡大を図るマッチングフェア、メニューイベントのほか、デジタルパンフレットの作成などにより那珂市ブランドの定着を図る。		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における農林水産出荷額（+12,400千円） ②デジタル技術導入経営体数（+35経営体） ③デジタル技術導入した経営体あたりの増加経営面積（+30a）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.naka.lg.jp/gyousei/ijyu-teijyu/page004107.html

事業概要：（仮称）道の駅なか整備事業

新規

申請者	茨城県那珂市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	2,263,513千円 (177,608千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	農業・観光・子育て・防災といった分野横断的な地域課題に対し、「人が集まる場」としての道の駅に、生産・消費・交流・支援の各機能を重層的に組み込む。これにより、地域の資源や主体をつなぎ直し、自律的な循環と経済性・公益性の両立を図るとともに、将来的な持続可能性と地域への誇りを醸成する統合型の地域課題解決拠点を構築する。さらに、地場産業の付加価値向上および販路開拓を軸に据え、関連分野を有機的に結びつけながら、地域経済の維持と拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 那珂市が直面する「農業の担い手不足」「観光拠点の不足」「子育て支援環境の不足」といった構造的な地域課題に対し、本事業では、これらを個別施策として捉えるのではなく、地域内資源を再編成し、交流・消費・支援の導線を再構築することにより、複合的な地域拠点＝道の駅の整備（新設）を通じて、持続可能な地域モデルの創出を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・生産・販売体制構築事業（委託料）2,178千円 ・飲食コンテンツ開発事業（委託料）5,500千円 ・地域参加型ワークショップ実施事業（委託料）1,991千円 ・プロモーション実施事業（委託料）4,072千円 ・観光周遊プログラム造成事業（委託料）10,285千円 ○拠点整備事業 ・造成工事 道の駅敷地の造成工事を実施 153,582千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（＋27.8億円） ②道の駅利用者数（＋97.9万人） ③道の駅の売上高（＋9.9億円） ④道の駅直売所における市内出荷者数（＋188人） ⑤認定新規就農者数（＋5人） ⑥大きな不安もなく子どもを育てられている人の割合（＋9.0％）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.naka.lg.jp/gyousei/ijyu-teijyu/page004107.html

事業概要：いなしきシティプロモーション事業

新規

申請者	茨城県稲敷市					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	64,772千円 (24,870千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・都市部にはない豊かな自然環境やふるさとの歴史的・文化的価値のある観光資源を積極的に活用し、市民のまちへの愛着や誇りの醸成に取り組み、市内外の人の交流を促進する施策を展開することで、まちの評価を高め、市民の幸福度の向上を目指す。 ・若年夫婦層が将来の居住地や子育ての場として本市を選択肢の一つに位置付ける意識形成を図り、定住人口に加えて交流人口から関係人口、さらには転入へとつながる流れを形成することを目指す。 ・地域全体の付加価値を高め、市内外の人の流れと消費行動を創出し、地域経済の維持と事業者の収益機会の拡大を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「首都圏大規模施設等でのPRイベントの開催」、「プロモーション電子書籍・動画・紙冊子作成事業」、「大手FM局を活用した広告事業」により、市外に暮らす人々に対して、イベントでの交流やメディア等を通じた「稲敷市」の名称や魅力に触れる機会を増やすことで認知度を高め、観光来訪を促進する。また、市民には自分の暮らすまち、ふるさとの魅力や地域資源の再発見を促し愛着の醸成につなげることで、市外に流出していた買い物・娯楽などの行動を市内へ引き戻し、地域内消費の拡大を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・首都圏大規模施設等でのPRイベントの開催（施設利用料）1,320千円 （消耗品）293千円 （備品購入費）366千円 ・大手FM局を活用した広告事業（広告料）4,191千円 ・プロモーション電子書籍・紙冊子・動画作成事業（委託料）18,700千円						
主なKPI	①地域の人口（▲1,531人） ②Instagramにおける「#稲敷市」の投稿件数（+0.6万件） ③市民の定住意向「住み続けたい」と感じている市民の割合（+22.9%） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定

事業概要：桜川市移住・定住支援事業

継続

申請者	茨城県桜川市					初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	22,021千円 (6,018千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・移住・定住支援情報の発信とプロモーションを強化し、市外からの関心を高める。 ・移住相談窓口の機能を強化し、移住希望者のニーズに広く答えることのできるサポート体制の構築を図る。 ・移住体験プログラムやお試し居住施設を整備・活用し、移住のきっかけづくりを図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 1995年から一貫して人口が減少しており、転入者の減少による社会減が大きな要因となっている。一方で、これまで移住検討者等に対し情報発信を行っていなかったため、情報発信の強化を行いつつ、移住検討者の相談対応及び移住者の受入れ体制を構築する。加えて、移住前に地域の魅力や生活を体験できるきっかけづくりを実施する。						
	【R8年度事業 経費内訳】						
	●桜川市の魅力の発信、移住・定住情報の拡充 ・移住ポータルサイトにおける情報発信（使用料）957千円 ・ふるさと回帰支援センター等を活用した東京圏での情報発信（負担金）50千円 ・移住パンフレット制作費（需用費、委託料）451千円 ・移住フェア等出展料（使用料）1,285千円 ●移住相談窓口の運営（移住体験）、移住者等の受入れ・サポート体制の強化 ・アドバイザー招聘費（報償費）96千円 ・体験プログラム実施費（委託料）3,179千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①移住相談窓口における相談件数（+420件） ②移住相談会等での相談件数（+325件） ③移住相談窓口を通じた転入件数（+33件） ④お試し居住施設利用件数（+18件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://www.city.sakuragawa.lg.jp/ijyu_teijyu/ （効果検証） https://www.city.sakuragawa.lg.jp/shisei/sousei/

申請者	茨城県銚田市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	149,314千円 (50,550千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・市の自然やアウトドア環境等を活用した「ラーケーション」向けの観光コンテンツを整備することで、平日の観光誘客を促進し観光消費の増加を図る。 ・「Vtuber」を活用したシティプロモーションを実施し、若年層を対象とした観光誘客を促進することで、市内観光消費の底上げを図る。 ・既存の「農業×観光」や、「ラーケーション」、「Vtuber」など、市の観光等コンテンツ情報を集約し発信する、総合情報発信体制を整備することで、多方面のターゲットに対して適切に市内観光等情報を発信する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 市の保有する資源を活用した市独自のラーケーション向け観光コンテンツの整備、デジタルコンテンツ「Vtuber」を活用した包括的シティプロモーションを推進するとともに、市シティプロモーション情報発信体制の強化に取り組むほか、観光来訪者に対して手軽な形式で市内観光周遊への付加価値を提供できることに加え、飲食店や商店など、従前の観光施策では対象とならなかった市内事業者の参画を促し、経済の活性化に寄与する。					親子で楽しむラーケーション向けプログラム   湖沼を活用したアクティビティ整備  「野菜王国」銚田ならではの体験コンテンツ  デジタルの力を活用し銚田の魅力をPR 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ●（一社）銚田市観光物産協会への事業費補助 ・補助金 15,000千円 ●ラーケーション及び観光デジタルコンテンツを活用した誘客促進（モニターツアー、デジタルクーポン、デジタルスタンプラリー等の実施） ・委託料 2,700千円 ・負担金（観光コンテンツ周知用媒体への掲載）1,500千円 ●デジタルコンテンツを活用したシティプロモーションの実施（Vtuber活用、シティセールス用HP・SNS整備、首都圏シティプロモーション実施） ・委託料 25,850千円 ●観光デジタルサイネージを市内主要観光施設へ整備 ・委託費 5,500千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（+2,500円／人） ②造成したコンテンツによる市内来訪者数（+500人） ③事業者の参画件数（+60件） ④デジタルクーポン利用件数（+900件） ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hokota.lg.jp/page/page002377.html

事業概要：ふるさと意識醸成事業～誇れるまちの創生へ～

継続

申請者	茨城県鉾田市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	30,700千円 (9,900千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	農業をフラッグシップとして、地域とのつながりに重点を置き、ターゲットを絞って次の事業を連続的に取り組むことで若者の転出抑制、定住促進へ効果を高めていく。 ①小中学生へ「農業」や「野菜」を活用した「シビックプライド」の醸成、「農業」への好感度を高める。 ②高校生・大学生等に対し、地域の企業や人を知ってもらうことで将来の故郷での就業の意識づけや同年代との繋がりをつくる。 ③地域で活躍する女性から若者の求める環境やニーズを拾い上げ、定住支援策を検討推進していく。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 「農業」をフラッグシップとしたふるさと意識醸成に取り組むとともに、地域と若者の繋がりを重視した事業を展開することで定住促進を図る。小中学生に農業や野菜を通じて地域への誇り（シビックプライド）を育む教育の推進、高校生・大学生に地域や仕事を知る機会や交流の場を提供し将来の地元就業を意識づける取組、若者（特に女性）のニーズ把握やインターン支援・情報発信を通じた定住支援を行うことで、地域愛の醸成から就業・定住まで一体的に促進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ●「農業」と「野菜」をきっかけとしたふるさと意識醸成事業 ・【子供向け】小中学生への出前講座(委託料) 2,500千円 ・本市野菜の付加価値向上を学ぶ機会提供(車借上料)400千円 ・【大人向け】「野菜」と絡めた行動変容支援(委託料) 1,000千円 ・「野菜」のレシピやチラシ配布等の各種PR(委託料) 500千円 ●若者を繋ぐふるさと意識醸成事業 ・「(仮)先輩ぶっちゃけトーク」運営支援サポート(委託料)2,000千円 ・講師謝礼（報償費） 500千円 ・交流会等開催に係る経費(会場借上料) 500千円 ●若者の定住支援推進事業 ・若者や女性の地域活動推進のための座談会等支援(委託料) 2,500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本市へのUIターン数(10代～20代) （+60人） ②小中学生の市への愛着度 （+5%） ③市民の野菜摂取レベル （+0.6レベル） ④若者を繋ぐふるさと意識醸成事業参加者 （+150人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.hokota.lg.jp/page/page002377.html

事業概要：つくばみらい市100年間愛される地元創生プロジェクト

継続

申請者	茨城県つくばみらい市					初回採択回	令和6年度第1回募集	
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	72,200千円 (11,580千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業			
目的・効果	当市のシティプロモーション事業として、つくばエクスプレス開業により増加した新たな住民と、旧来在住の住民とのふれあいや交流の促進、地域への愛着の醸成や、市が従来持つ魅力的な資源等を効果的に活用しながら、更なる移住定住や、就労促進の一助となるような取組を積極的にPRすることにより、「100年間愛される地元になるまち」を目指す。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 第2次つくばみらい市総合計画後期基本計画において、市が目指す姿として「文化芸術の振興」及び「スポーツに親しむ機会の提供」、「持続可能な農業支援体制の構築」が示されていることから、いつから住んでいても、どこに住んでいても、どんな年齢でも、性別でも、職業でも分け隔てなく、主体的に、能動的に参画できる「アート」と、4つの名門ゴルフ場があり、毎年男女のトーナメント大会が開催されるなど、鉄道でも車でも非常にアクセスが良い昔からの市の強みである「ゴルフ」、水稻米等の農産物の付加価値向上及び農業経営の活性化を目指す「農業」を主軸とした地方創生を図る。							
	【R8年度事業 経費内訳】 ●【アート制作体験（WS）事業】6,179千円 ・街中でのアート事業を展開し、参加者のみならず、周辺住民、通りがかりの人々への波及効果を狙う。 ●アート事業【企画構成支援事業】1,500千円 ・どのように実施するのか専門的知見を受ける○アート事業【チーム運営費】500千円 ・チーム運営に係る事業費準備 ●ゴルフ事業 1,000千円 ・他の自治体等と連携し、ゴルフ交流大会等を開催 ●米PR事業 2,401千円 ・米・食味分析鑑定コンクール国際大会を開催し、国内外へ向けて市内産米のPRを行う。							
主なKPI	①地域の人口・世帯数（+450人） ②アート事業実施により「市に愛着が沸いた」市民の割合（+70%） ③市内農家が米コンテストへ出品する数（+60件） ④ゴルフ場への職業体験を実施した市内学生（市内小中学生・高校生）の人数（+7人）					URL		https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/gyousei/sougousenryaku/page000775.html
						※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL		

事業概要：地域農業と市場を繋ぐ米流通拠点整備事業

継続

申請者	茨城県つくばみらい市					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,200,945千円 (1,173,225千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本市の農業従事者、特にコメ農家の所得向上や今後の担い手候補の開拓につながる拠点を整備する。中長期的に「つくばみらいのコメ」を基軸とした好循環が生まれ、地域経済の安定化及び活性化につながる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 コメ農家の所得向上や担い手確保を目的に、集荷・保管・精米・包装・配送までを一体化した拠点を新たに整備し、民間事業者が運営する。販路拡大と付加価値向上により農家収入を増加させ、「つくばみらいのコメ」のブランド化と需要拡大を促進。さらに就農希望者の参入支援や後継者確保につなげ、地域農業と経済の活性化を図る。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・米流通拠点施設本体工事 1,173,225千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における新規就農者数（コメ農家）（+9人） ②本件施設で加工されたコメの販売高（+3億3,500万円） ③本件施設における雇用者数（+7人） ④本件施設で行われたイベントへの参加人数（+1,260人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.city.tsukubamirai.lg.jp/gyousei/sougousenryaku/page000775.html

事業概要：茨城県とゆかりがある相撲部屋と連携した相撲ツーリズム事業

新規

申請者	茨城県大洗町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	31,500千円 (10,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・本県にゆかりのある二所ノ関部屋等と連携協定を締結し、相撲イベントや相撲を核とした観光施策（相撲ツーリズム）を展開することで、従来の相撲ファンだけでなく、最近増加している若い女性や外国人の相撲ファンを本町に呼び寄せるとともにリピーターにつなげ、宿泊や飲食、土産の購入等を通じてまちの賑わい創出及び活気ある大洗の経済の実現を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・毎年、二所ノ関部屋等と連携した相撲イベントを実施（公開稽古・子どもとのふれあい稽古・親方や力士によるトークショー等） ・二所ノ関部屋等の関取（十両以上）の化粧まわしを本町に寄贈していただき、力士の等身大パネルや化粧まわし等を町内主要観光施設等に展示することで、相撲ファンの町内周遊を促す。 ⇒これらの事業を長期的な視点にたって展開することで、地域文化への理解と愛着を醸成し、その結果として本町の観光入込客数を増加させ、宿泊や飲食、土産の購入等を通じてまちの賑わい創出及び活気ある大洗の経済の実現に繋げる。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・相撲イベントの実施 9,500千円 ・相撲ツーリズムの実施 500千円 ・相撲ツーリズムの広報宣伝 500千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額（+3,000円） ②観光入込客数（+60,000人） ③相撲イベントの入込客数（+6,000人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年4月公表予定

事業概要：かつら地区かわまちづくり計画を拠点とした地域活性化事業

新規

申請者	茨城県城里町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	247,587千円 (22,290千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・かわまちづくり計画に掲げる、那珂川沿いの護岸延伸や河川構造物、多目的広場、および管理用通路を整備し、安全かつ快適な新たな観光拠点の整備し、観光消費額増に繋げるなど、新たな交流拠点を創り、地域経済の活性化を図る。 ・地元団体と連携した新たなイベント（キッチンカーフェスティバル等）を年間通じて展開し、次世代へ継承される水辺文化の形成と地域コミュニティの活性化を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 那珂川を活かし、移転・新築した道の駅かつらや桂運動公園などの周辺施設との一体的な整備による地域振興を目指す。従来の機能の補完にとどまらず、観光客、若者や子育て世代などを呼び込み更なる地域活性化に資するため以下の拠点を整備する。 ・（新設）道の駅を運動公園を繋ぐ河川構造物 ・（新設）運動公園の整備（ジップライン、遊具、ドッグラン等）						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・河川構造物整備工事 22,290千円						
主なKPI	①地域における観光消費額（+281,180千円） ②ジップライン利用者（+183,300人） ③かわまちづくりイベント開催数（+30回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.shirosato.lg.jp/page/page005231.html

申請者	茨城県大子町					初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	26,367千円 (2,827千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・商店街の空き家等を活用したビジネスを創出し、その歴史や文化を維持するとともに、新たな産業と雇用の創出を図る。 ・若者の定着や地方回帰を促し、観光及び商業の中心地として持続する商店街を目指す。 ・町内観光スポットと商店街との新たな人の流れを創出し、観光消費額の増加を図る。 ・人流データ等を活用し、EBPMを推進する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・空き家・空き店舗等の活用による商店街のにぎわい創出を通じた町内全域の活性化を目指す戦略を策定し、当該戦略を実行する持続可能な体制を構築する。また、体制の自走化を見据え、体制との連携事業を実施する。 ・本事業の効果を的確に測定し、当町におけるEBPMを推進するために人流分析システムを活用する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ・町内外プレイヤーの掘り起こし（委託料） 1,914千円 ・空き家等の利活用促進（委託料） 583千円 ・人流分析システム使用料（使用料） 330千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町内における観光消費額（＋2億8,134万4千円） ②駅前商店街と袋田の滝との観光周遊数（＋1万8千860人） ③駅前商店街への来客数（＋14万3千27人） ④駅前商店街において、空き家等を活用して創出されたビジネスの数（事業承継を含む。）（＋3件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/page008407.html

事業概要：観光交流施設整備によるにぎわい創出事業

旧制度（拠点）

申請者	茨城県大子町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,126,389千円 (669,278千円)
事業タイプ・類型	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	観光分野
目的・効果	課題として、人口減少（2050年に▲60%）及び観光客減少により、消費販売額等が▲50%以上（20年前比）となっている。対策として、防災道の駅の機能拡張及び受入体制の強化により、地域特性を活かした賑わいの創出を図る。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 防災道の駅の拡張として観光交流施設を建築し、アウトドアブランドとの連携による地域特性（県内最高峰の山、一級河川、サイクルツーリズム等）を活かしたアウトドアアクティビティの創出・促進や、地域資源・特産品の販路拡大を図る。 また、チャットボット等で一部の行政サービスを提供すること、町内で運行しているAIタクシーの発着点に指定することなどにより、来客の利便性向上を図る。		
	【R8年度事業 経費内訳】 ・【建築物本体工事】建築工事 549,296千円 ・【効果促進事業（ハード事業）】設備工事 75,238千円 備品 37,238千円 ・【効果促進事業（ソフト事業）】オープンイベント 847千円		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画 における「KPI増加分の累計」 の目標値	①地域における観光消費額（+6億6,396万8千円） ②主要な観光スポットにおける観光客数（+42万6,547人） ③主要な観光スポットにおける周游客数（+13万5,523人） ④道の駅（既存含む）における新規雇用者数（+14人）		URL ※交付金の具体的使 途・実施体制・効果検 証の結果及び改善方策 への反映が記載されてい るURL https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/page008407.html

事業概要：地域活性化に向けた誘客及び受入体制整備事業

継続

申請者	茨城県大子町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	130,525千円 (75,919千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・地域活性化に向け、台湾での効果的な観光PRを行い、認知度向上・関係構築とインバウンド需要を取り込む。 ・中心市街地の駐車場不足を解消し、行楽シーズンにおける渋滞を緩和するとともに、観光地としての魅力度向上を図る。 ・大学・高校等のスポーツ合宿誘致を行い、年間を通じた地域活性化を図る。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・台湾旅行博において町単独ブースを出展し、観光PRを行う。特産品マスコットキャラクターの着ぐるみを作成し、観光PRを行う。 ・中心市街地に駐車場（改築）を整備し、要駅周辺中心市街地の渋滞緩和を図りながら周遊を促す。 ・大学・高校等のスポーツ合宿誘致について、受入体制の構築が完了したため、モニターツアーを造成する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・台湾からの誘客推進（委託料）1,651千円 （備品）1,300千円 ・スポーツ合宿誘致（委託料）1,000千円 ○拠点整備事業 ・中心市街地駐車場整備 71,830千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額 （+4億9,239万7千円） ②主要な観光スポットにおける観光客数 （+21万8,754人） ③主要な観光スポットにおける周遊客数 （+3万4,452人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/page008407.html

事業概要：遊びに行きたい！見に行きたい！イメージ戦略プロジェクト

新規

申請者	茨城県大子町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	49,572千円 (32,620千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	美しい自然や魅力ある観光・交流資源などを活用した新たな観光誘客対策及び中心市街地など周辺観光施設等への回遊性向上対策とともに、本町ならではの効果的なプロモーション戦略と新たな体験型コンテンツの提供により、地域資源の魅力度向上、観光客数の回復とさらなる増加、地域経済の維持・発展を支える持続可能なまちづくりを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 SNS世代をターゲットにしたプロモーション、ブランディングを実施する。そこで創出された交流人口から地域経済の発展につなげるため、町内観光施設等での観光PR動画を放映し、町内回遊やリピーターを創出する。ジップラインなどの体験コンテンツ、地域資源を活用した体験型イベント開催、昭和初期の街並みや歴史的建造物等の魅力発信等、記憶に刻まれる体験を提供する。 「遊びに行きたい！見に行きたい！」と思ってもらえるプロモーション +実際に来て、触れて、記憶に刻まれる体験					 ※整備イメージ	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業（施設整備等含む） ・タウンブランディングサイトコンテンツ作成（委託料）924千円 ・タウンブランディングイベント開催（春・秋）（委託料）3,582千円 ・SNS用動画作成（委託料）1,000千円 ・町内観光施設で放映する施設紹介動画制作（委託料）3,780千円 ・ジップライン整備に係る研修（委託料）729千円 ・ジップライン整備（委託料）19,705千円 ・歴史的建造物等の説明看板設置（工事費）2,900千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+4.8億円） ②観光入込客数（+455,925人） ③ジップライン利用者数（+25,100人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/page008407.html

申請者	茨城県大子町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	272,668千円 (113,821千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	廃校となり、現在は活用していない中学校舎の一部を改修して果汁化施設を整備し、県外委託に依存していた加工工程を町内に集約することで、生産から加工・販売までをすべて町内で完結できる地域完結型の6次産業化を推進する。規格外りんごの有効活用とストーリー性のある商品開発を強化するとともに、販路拡大と周辺地域からの加工需要の取り込みにより外部資金獲得を図り、農林水産出荷額の増加、雇用創出、地域経済循環の拡大を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 廃校となった中学校舎の一部（約410㎡）を活用し、年間約70トンの処理能力を有する果汁化施設を整備し、生産から加工・販売までをすべて町内で完結できる地域完結型の6次産業化を推進することで、県外委託によるコストや付加価値流出の課題を解消する。小ロット加工に対応することで若手・小規模農家の参入を促し、多品種・高付加価値の加工品開発や地域ブランドの確立を図る。さらに、町内産果実の加工にとどまらず、周辺地域からの加工需要の受け入れ、近隣農家や自治体の加工ニーズを取り込み、地域外からの資金を町内に流入させることで“外部資金の獲得”を実現し、地域経済のさらなる活性化を目指す。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 施設改修 113,821千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①りんごの総出荷額（+81百万円） ②本施設整備による加工売上高（+3,659万円） ③本施設整備による外部需要取り込み額（+501万円） ④本施設整備により新たに雇用した雇用者数（+7人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/page008407.html

事業概要：多世代・多様な働き方を支える地域拠点整備事業

新規

申請者	茨城県阿見町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	231,072千円 (72,704千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	既存施設の機能再設計により交流拠点エリアを創出し、コワーキングスペースをはじめとする多様な利用機能を導入することで、地域住民の滞在時間及び日常的な来訪頻度を高めることにより、隣接する公共施設との相乗効果を生み出し、周辺商業やサービス利用を含む地域内消費の拡大につなげることを目的とする。 また、高校生会やボランティア団体等による活動や多世代交流を通じて、地域に関わり続ける人材の循環と定着を促進し、地場産業を支える担い手の確保やUIIターンの促進につなげ、「人材・消費・産業」が循環する地域経済構造の形成を通じ、地場産業の持続性と地域経済の底上げを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 1階には、多世代交流エリアを整備する。くつろぎスペース、デジタルサイネージ、授乳ブース、ウッドデッキ及びテラス席を設け、遊び・学び・交流を楽しめる拠点とする。2階には、コワーキングスペース及びギャラリースペースを整備する。映像設備の導入や飲食可能なギャラリー・カフェスペースの整備により、中高生や社会人が学習やワークスペースとして利用できる滞在空間とする。あわせて、エレベーターの新設やトイレ等の整備を行い、利便性の向上及びバリアフリー化を図ることで、多世代が多様な目的で利用できる滞在型地域交流空間を創出する。					1階交流エリアイメージ 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 〈模様替え〉 68,339千円 ・1階交流エリア整備工事、R9年度設計委託料（EV新設、コワーキングスペース等） 〈設備整備〉 1,095千円 ・大型遊具、R9年度設計委託料（外構整備） 〈交流エリア備品〉 3,270千円 ・備品（創造するおもちゃ等）					2階地域拠点エリアイメージ    ※AIで作成した画像を使用しています	
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口（+310人） ②地域拠点の利用満足度（+4.2ポイント） ③地域拠点の利用者数（+200人/年）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ami.lg.jp/

事業概要：コミュニティを中心とした賑わいの場創出事業（仮称 五霞町多世代交流コミュニティセンター整備）

継続

申請者	茨城県五霞町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R11年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,759,528千円 (37,971千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・（仮称）五霞町多目的多世代交流コミュニティセンター〈新庁舎複合施設※新庁舎は交付金対象外施設〉をモール型商業施設の隣接地に設置し、新たな人口の交流形成及び町の賑わいを創出する。 ・当該コミュニティ施設を拠点に、住民、企業、町といった地域の主体の他、交流人口と関係人口も巻き込む形で持続可能な社会の形成を目指すとともに、幅の広い町の活性化と魅力の向上を図り、人口の転出抑制・転入確保を促進し、町民が幸せと誇りを持てる町とする。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 公民館を（仮称）五霞町多世代交流コミュニティセンターに変え、新庁舎（交付金事業対象外施設部分）と一体的に整備し、町内コミュニティ施設の拠点化を図る。 （仮称）五霞町多世代交流コミュニティセンターと隣接する商業施設を一体的に整備し、生活環境の向上と新たなコミュニティ醸成に伴う賑わいの場を作る。（仮称）五霞町多世代交流コミュニティセンターを活用し、町外から人を呼び込み、新たな定住者を確保する。					 イメージ図	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・五霞町多世代交流コミュニティセンターの建築物基本設計及び実施設計業務委託費 建築物整備 28,896千円 設備整備・用地造成等 9,075千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①新たな転入人口の増加数（+60人） ②転出者の転出抑制数（+50人） ③町民等による新たな交流創出件数（+16団体、件） ④新たな施設利用回数（+300回）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.goka.lg.jp/kurashi-machi-shigoto/gyousei/machizukuri/chihou-sousei-kouhukin/suisinkouhukin/page006457.html

事業概要：地域商社及び観光DMOによる地域活性化事業

継続

申請者	茨城県五霞町					初回採択回	令和7年度第1回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	45,000千円 (15,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	・自立した地域商社及び観光DMOと道の駅・町の連携により「まちを見て、知って、分かってもらう」から「まちに来てもらい、楽しんでもらい」交流人口を図り、次の「まちにちょっとずつ関わって、まちに愛着をもってもらい」、「住んでみたいと思うまち」につなげることを目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 道の駅ごかを会場としたイベントの支援を行い、地域製品の販売を地域商社と連携して行う。 また、産業間連携及び産官学連携を推進し、連携する学校からは、イベントボランティアの参加のほか、関係人口創出や、外からの目線の意見をもらう。 さらには、商工会、工業クラブとは、町内の人材を活用するにあたり、連携して取り組む。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ●魅せる事業 ・地域商社及び観光DMO設立による観光・イベントの戦略的推進 3,000千円 ・道の駅ごとと連携したイベント実施 5,000千円 ・町内の宿泊施設・キャンプ施設誘致に向けた町と連携した企画提案 1,000千円 ●稼ぐ事業 ・インバウンド向け販売対応改善 3,000千円 ・道の駅経営改善提案 2,000千円 ・開発グルメを提供できる町内の飲食店提供支援 1,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額 (+60,000千円) ②イベント客数 (+2,400人) ③観光ツアー企画 (+3個) ④町内で道の駅以外で開発グルメを提供できる店の数(+3店舗) ⑤観光DMOから町への企画提案件数 (+3件)					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.goka.lg.jp/kurashi-machi-shigoto/gyousei/machizukuri/chihousousei-kouhukin/suisinkouhukin/page006457.html

事業概要：連続する官民連携事業を包括するエリアマネジメント組成事業

継続

申請者	茨城県五霞町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	15,000千円 (5,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	対象エリア（Ⅰ期）である圏央道五霞IC周辺地区を地方創生のパイロットエリアとして、複数の公有地で連続的な官民連携事業を実施し、エリア全体の価値向上に資するまちづくりを目指す。 エリアマネジメント組織を組成し、事業として共同PR事業や収益事業を実施することで、持続可能で一体的なまちづくり及びまちづくり人材を育成を目指す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 エリアマネジメント組織を組成し、庁内外や産学官金労言と連携した体制を構築する。公有地活用事業及び道の駅ごかを含めた共同PRや施設管理、モビリティ等の収益事業を段階的に実証・実装し、町の魅力発信と認知向上を図る。併せて人材育成・人材バンクを整備し、持続的な協働のまちづくりを推進する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ●エリアマネジメント実施計画 ・エリアマネジメント事業計画策定調査委託 （委託料）5,000千円 （1）エリアマネジメント組織の組成、活動計画の策定 （2）事業実施計画の策定（実証事業を含む） （3）まちづくり人材バンク・登録制度の公募支援						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①観光入込客（対象地域内）（+75,000人） ②相互送客割合（+30%） ③(仮称) まちづくり人材バンク登録者数（+40人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.goka.lg.jp/kurashi-machi-shigoto/gyousei/machizukuri/chihou-sousei-kouhukin/suisinkouhukin/page006457.html

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

旧制度（拠点）

～（仮称）境町地域活性化宿泊施設整備事業～

申請者	茨城県境町	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	400,000千円 (78,500千円)
事業タイプ・類型	地方創生拠点整備タイプ	事業分野	観光分野
目的・効果	公募選定された大手宿泊施設運営事業者と連携し、現在本町にあるすべての宿泊施設と同等の宿泊室数を有する大規模宿泊施設を整備する。これにより、不足していた宿泊施設が充実するとともに、本件施設を中心とした「境宿復興プラン」を構築実施することで、宿泊業、商工業の活性化や移住定住の促進などにつなげる。		
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 全国で宿泊施設を運営する等、宿泊事業に精通する施設運営事業者を公募選定し、周辺自治体や境古河ICに接続し、路線バスや自動運転バス停にも程近い県道沿いに大規模宿泊施設を整備する。また、集約した顧客データを用いた効率的な施設運営、新たなサービスの創出や観光政策等の検討を行うため、顧客管理システム及びキャッシュレス決済も可能なスマートチェックイン・アウトシステムを導入する。	  新規宿泊施設の整備及び「境宿復興プラン」の構築実施による地域活性化（イメージ）	
	【R8年度事業 経費内訳】 ・【建築物本体工事】 本体建築工事費 271,920千円 (交付対象事業経費 46,350千円) 設計管理費 25,000千円 (交付対象事業経費 1,030千円) ・【設備工事】 室内内装工事費等 19,924千円 (交付対象事業経費 4,120千円)		
KPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+756,525千円） ②本件施設の利用者数（+50,435人） ③本件施設を活用した「お試し宿泊」者数（+1,200人） ④本件施設活用による雇用増加数（+14人）	URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト

～（仮称）「さかいのコメ」高付加価値化促進拠点施設整備事業～

継続

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第1回募集	
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	623,210千円 (42,200千円)	
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業			
目的・効果	近年需要が高まっている米粉などの加工製品を研究開発生産する施設を整備するとともに、新規就農者の増加につながるソフト事業（デジタルを活用した農業の省力化、SDG s の推進や農業生産にかかるコスト削減につながる取り組み）と併せて展開することで、主食米以外の加工米等の需要拡大を図り、コメ農家の所得向上に繋げる。 中長期的には、コメ農家の後継者問題の解決や耕作放棄地の増加に歯止めをかける。							
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 米粉など加工用米製品の研究・生産を進めることで、主食以外の用途での米需要が拡大し、農家の所得向上が期待される。さらに、新たな食文化の創出や関連産業の売上増加、ブランド認知向上によるインバウンド増加を通じて地域経済を活性化し、新規就農の促進や既存事業者の継続にもつなげる。 ・（ハード）（仮称）「さかいのコメ」高付加価値化推進拠点施設（新築） ・（ソフト）次世代農業人口増加促進事業 新規就農者の増加につながる諸施策の推進、事業承継等をスムーズに行える仕組みの構築を行う。					 		
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・次世代農業人口増加促進事業 42,200千円							
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における農林水産出荷額（+40,800千円） ②当該施設全体の雇用者増加数（+12人） ③当該施設で出荷された商品の販売額（+204,000千円） ④工場見学者数（特に海外からの訪問者数、町内の子供たちの社会科見学による訪問者数、全国からの視察者数）（+1,500人） ⑤本町の認定農業者数（+10人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibarakisakai.lg.jp/page/page000799.html	

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト ～誰ひとり取り残されない次世代人材育成事業～

継続

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	496,094千円 (157,200千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	経済状況にかかわらずすべての子どもが規則正しい生活習慣を身につけ、学びに取り組み、未来を担う人材として成長できる環境を整えられるよう、「アフタースクール事業」、「キッズからだバランスアップ事業」、「高度デジタル人材育成事業」を実施する。この事業を実施することにより、「地方創生2.0基本構想」が掲げる「誰もが安心して暮らし、活躍できる地方社会」の実現、幸福度が高く持続可能なwell-beingのまちづくりにつなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業では、子どもの教育格差や生活リズム格差の解消を目的とし、地域の将来を担う健全な人材を育成することで、幸福度の高いwell-beingなまちを実現するため、以下の3つの事業を一体的に実施する。 「アフタースクール事業」：全ての子どもが参加できる、休日を含む放課後に、スポーツ教室や学習指導を提供する。 「キッズからだバランスアップ事業」：生活困難世帯やひとり親世帯の児童を対象に、医師や栄養士、指導員の協力のもと、泊まりがけの合宿形式で生活・食事・運動・学習の改善を支援する。 「高度デジタル人材育成事業」：3Dプリンターやロボット等の先進機材を整備し、英語指導可能な専門人材を配置して、休日・放課後に児童が自由に先端技術に触れられる環境を整える。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・高度デジタル人材育成事業、アフタースクール事業の実施 132,000千円 ・キッズからだバランスアップ事業の実施 25,200千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町民全体のwell-being指標（幸福度指標）（+0.7ポイント） ②アフタースクール事業、キッズからだバランスアップ事業、高度デジタル人材育成事業への参加者数（延べ）（+1,000人） ③滋養の参加者の満足度（+100%） ④高度デジタル人材育成事業参加者のうち、「先端技術に興味がある」と回答した人の割合（+100%）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト～スポーツを核とした持続可能なまちづくり推進事業～

継続

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	1,826,100千円 (610,300千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本町は、東京オリンピックのレガシーを受け継ぐ全国屈指のスポーツ施設群を有しており、これを活用した国際スポーツ大会の定期開催を通じて、観戦客や選手の経済活動を促進し、地場産業と連携した町内回遊性向上、持続可能な交通サービスの整備を一体的に進めることで、スポーツを核とした地域資源の有効活用と経済の好循環を創出する。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・世界レベルの競技を実施できるアーバンスポーツパークを活用し、世界大会を実施する。日本・世界のトッププレイヤーが集まることで、観戦者（交流人口）の獲得とともに住民のスポーツへの興味を喚起し、スポーツへの意識向上もねらう。 ・来訪者のリピート率向上や経済活動促進のため、町の魅力や特典情報を集約した専用HPを制作し、デジタル活用を強化する。加えて、地元事業者に対してマーケティング・接遇研修を実施し、宿泊・飲食・観光業の受け入れ能力を向上させる。 ・まちづくり企業や商工会等と連携し、特産品即売イベント「工場市」やスタンプラリーを開催する。 ・交流人口増加で顕在化する移動需要を契機に、官民連携で「交通商社」を設立し、需要分析を踏まえ、AIオンデマンドバスや観光循環バスなどを運行する。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・国際スポーツ大会の開催・交流イベント 405,300千円 ・経済活動促進と持続的成長の推進 21,000千円 ・地元特産品活用・町内回遊促進 110,000千円 ・交通商社設立と持続可能な交通網整備 74,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①人口の社会増減（+300人） ②地域へのUIJ ターンにつながるスポーツ大会の参加者数（+10,000人） ③大会HPの利用者数（+3,000人） ④アーバンスポーツパーク利用者数（+6,559人） ⑤本町の雇用者数（+100人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibarakisakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要： 河岸の街さかい復興プロジェクト～いきいき長寿と共生社会実現事業～

継続

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	193,700千円 (106,500千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業		インフラ整備事業		
目的・効果	本事業では、「健康づくり」「孤立防止」「社会参画促進」という3つの視点から、デジタル技術や医療MaaSを活用し、高齢者が安心して暮らし続け、健康で活躍できる地域社会の構築を目指すものである。これは国の「地方創生2.0基本構想」に示される「安心して暮らせる地方の生活環境の創生」という政策目標に合致し、先導的なモデルとなる取り組みである。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ・ 高齢者の健康寿命延伸に資するデジタルを活用したフレイル教室を設置。その際、体の動きなどをセンサーで数値化するとともに「（仮称）デジタル健康カルテ」で登録し、改善状況を判断できるようにし、健康状態のベースラインデータを作成し、各人に応じた体力づくりのメニューを構築提供。 ・ 医療MaaSによる眼科健診の全町試行を実施するため、看護師や運転手などの人員確保を図る。また、次年度以降の検診実施に向け、需要調査を実施する。 ・ 主に高齢者のデジタルデバйд対策、行政サービス利便性向上の一環として、月1回程度の初心者向け教室（スマホ教室、健康管理アプリの使い方など）を行う「デジタルサロン」を開設する。					 	
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・ 高齢者の健康寿命延伸に資するデジタルを活用したフレイル予防等事業 88,800千円 ・ 高齢者の健康寿命延伸に資する医療MaaS本格導入事業 14,400千円 ・ 高齢者の孤独化阻止・社会参画を促す「デジタルサロン」の開設・運営 3,300千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町民全体のwell-being指標（幸福度指標）（+0.7ポイント） ②フレイル事業への参加者数（+500人） ③要介護認定率（▲2.25ポイント） ④眼科等MaaS健診受診者のフォロー率（+100%） ⑤「デジタルサロン」の利用者数（+150人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibarakisakai.lg.jp/page/page000799.html

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R9年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	681,940千円 (615,940千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	・「大手和食ブランド企業との共創による高付加価値惣菜の生産」「農業連携による地域ブランド化」「体験型プログラムによる関係人口創出」を一体的に実施可能な『さかい食と和の拠点施設』を整備し、地域経済の中核機能を担う次世代型の複合拠点として展開する。 ・本施設により境町の特産品の価値を飛躍的に向上させ、「境町＝高品質な和食のまち」という新たなブランドイメージを構築。ひいては農産品全体へ波及させる。また、原料調達から製品開発・製造・流通までを一体的に行う仕組みにより、町内での付加価値を囲い込む。雇用面では若年層・女性・高齢者など多様な層へ安定的な職場を提供しつつ、賃金上昇と職業的自立による質的向上を実現させる。 ・和食研修や惣菜体験、料理イベント等の体験型プログラムを通じて、首都圏を中心とした都市住民に「食文化を通じた地域関与の入口」を提供し、リピーター化・移住促進へとつなげる。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 ○（仮称）「さかい食と和の拠点施設」（新築） ①高付加価値食品の製造拠点、②地場産農産物の流通拠点、③地域人材の育成・雇用創出拠点、④都市住民との交流・体験拠点という4つの機能を併せ持つ複合施設として整備する。 ○農業・自然体験を通じた関係人口創出プログラム 本施設と有機的に連携し、単なる農業体験にとどまらず、「食育」「農業理解」「食文化体験」等と一体化した体験型学習プログラムを提供する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・農業・自然体験を通じた関係人口創出プログラム 25,000千円 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 さかい食と和の拠点施設 296,307千円 ・設備工事 99,671千円 ・諸経費 55,022千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①本件施設における地元農産物の購入額（＋107,484千円） ②年間製造出荷額（＋493,680千円） ③本件施設の雇用者数（＋20人） ④本件施設見学者受入人数（＋2,500人） ⑤農業・自然体験を通じた関係人口創出プログラム参加者人数（＋50人） ⑥百貨店、通販納品先件数（＋50件）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibarakisakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト
～ (仮称)Sakai Green Smoothie Town構想拠点施設整備事業 ～

継続

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和7年度第2回募集
事業計画期間	R7-R8年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	549,242千円 (524,492千円)
事業類型	ソフト事業		拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本町内で生産される新鮮な野菜および酪農製品等を活用し、冷凍スムージー等の製造・販売を行う専用加工拠点施設を整備することで、町内飲食店・観光施設・イベント等への供給を実施する。 農業現場で出荷に適さず廃棄されていたB級品の野菜や、地元酪農から供給されるホエイ・ヨーグルト等の副産物を有効活用することで、圃場廃棄を減らし、農業者の所得向上に繋げる。また製造された製品を大手コンビニチェーン向けに供給することで、全国規模の販路確保及び価格の安定化を図り、持続可能な農業経営に繋げる。 本施設により、町の農産物・乳製品のブランド力を高め、農業と酪農の活性化、雇用創出、そして関係人口の拡大という好循環を生み出す。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本町内で生産される新鮮な野菜および酪農製品等を活用し、冷凍スムージー等の製造・販売を行う専用加工拠点（新築）である。この施設では、大手コンビニチェーンとの取引実績を有する食品加工業者と連携し、業務用スムージー原料の大量調整・急速冷凍・出荷までを一気通貫で行う。特に、農業現場で出荷に適さず廃棄されていたB級品の野菜や、地元酪農から供給されるホエイ・ヨーグルト等の副産物を有効活用する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○拠点整備事業 ・建築物本体工事 （仮称）Sakai Green Smoothie Town構想拠点施設 244,674千円 ・設備工事 69,129千円 ・諸経費 48,068千円						
主なKPI	①本件施設における地元農産物の購入（仕入れ）額（+132,000千円） ②本件施設における年間製造出荷額（+440,000千円） ③本件施設の雇用者数（+30人） ④本件施設見学者受入人数（+1,500人） ⑤本件施設で生産したスムージーを活用した町内飲食店数（+20店舗）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	https://www.town.ibarakisakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要：河岸の街さかい復興プロジェクト

～酒蔵を核とした地域未来推進事業 SAKE DIGITAL RENAISSANCE SAKAI～

新規

申請者	茨城県境町					初回採択回	令和8年1月募集
事業計画期間	R8-R10年度					期間中の総事業費 (カッコ内はR8年度事業費)	810,684千円 (99,000千円)
事業類型	ソフト事業	✓	拠点整備事業	✓	インフラ整備事業		
目的・効果	本事業は、酒蔵の価値を「飲食」に用途限定することなく、体験・教育・エンターテインメント・コンテンツ輸出へと拡張し、境町発のモデルとして国内外に横展開可能な形で実装するものである。また、酒蔵を核として、地元農業（酒米開発）、飲食業、観光、デジタル体験を一体的に展開することで、酒造業単体の維持にとどまらず、関連する農業・商工業・観光業の売上増加、雇用創出（障がい者等を含む地元人材の活用）、事業者間連携の高度化を実現する。これにより、地域全体の「稼ぐ力」を底上げするとともに、既存施策の成果を町全体へ波及させる役割を担うものである。						
事業概要・ 主な経費	【事業概要】 本事業は、伝統的な酒蔵を、最新技術で「体験」できる観光拠点へと生まれ変わらせる。まず、売場の改装や分析から始め、次に使われていない倉庫をデジタルアートが楽しめる体験施設へと改修。映像やAIを活用して日本酒の魅力を五感で伝え、外国人観光客や若者も楽しめる場所を創出する。最終的には、その演出や体験ノウハウを国内外へ発信・販売することで、交付金に頼らず、地元の雇用と利益を生み出し続ける仕組みを確立する。						
	【R8年度事業 経費内訳】 ○ソフト事業 ・販路拡大・プロモーション基盤構築事業 22,000千円 ・酒蔵復興プロジェクト委員会運営・調査事業 22,000千円 ・体験型イベント・ファンづくり事業 33,000千円 ・工場直売店改装事業 22,000千円						
主なKPI ※カッコ内の数値は実施計画における「KPI増加分の累計」の目標値	①町内消費額（新施設売上に対する地元商品割合）（+98,340千円） ②酒蔵全体の来場者数（+75,500人） ③本件整備施設の売上（+245,850千円） ④本件施設の雇用者数（+17人）					URL ※交付金の具体的使途・実施体制・効果検証の結果及び改善方策への反映が記載されているURL	令和8年6月公表予定